

第38回 IT戦略
総合大会

— 経営とITの融合を目指して —

2023年2月2日(木)・3日(金) 開催

開催結果報告書

2023年2月

目次

I. 開催プログラム	1
II. 企画委員	15
III. 協賛企業	17
IV. 2022 年度 IT 賞受賞記念講演概要	18
V. アンケート集計結果	31
VI. 2022 年度 IT 賞受賞企業記念写真	50

I. 開催プログラム

1. 概要

名称：第38回IT戦略総合大会 - 統一テーマ『経営とITの融合を目指して』 -

会期：2023年2月2日（木）・3日（金）

会場：ザプリンスパークタワー東京（東京都港区芝公園4-8-1）

主催：公益社団法人企業情報化協会

2. 第1日目：2023年2月2日（木） オープニングセッション

10:00	主催者代表挨拶： 公益社団法人企業情報化協会 副会長 第38回IT戦略総合大会企画委員会 副委員長 (株式会社NTTデータ 代表取締役副社長) 山口 重樹
10:10 ～ 11:00	基調講演：「ヤマトが進めるDX戦略」 ヤマトホールディングス株式会社 特別顧問 山内 雅喜 (公益社団法人企業情報化協会 会長)
11:10 ～ 12:00	基調講演：「デジタル変革と経営」 SOMPOホールディングス株式会社 グループCEO 取締役 代表執行役会長 櫻田 謙悟
昼食休憩	
13:10 ～ 14:00	特別講演：「『学び直し』のすすめ～新たなキャリアを切り拓く～」 女優・経営者・研究者 いとう まい子
14:10 ～ 15:40	2022年度IT賞受賞企業記念講演 IT最優秀賞（マネジメント領域） 「グループ一体でのIT・デジタル人材育成体制構築 ～内製化により3000名をサステナブルに育成～」 日本生命保険相互会社／ニッセイ情報テクノロジー株式会社 日本生命保険相互会社 取締役常務執行役員 岸淵 和也 IT最優秀賞（トランスフォーメーション領域） 「トリドールのDX ～SaaS、DaaS、BPO、ゼロトラストで構築するビジネスプラットフォーム～」 株式会社トリドールホールディングス BT本部 執行役員 兼 CIO 兼 CTO 磯村 康典

16:00 ～ 17:00	<p>2022 度 I T 賞 表彰式典</p> <p>【講評】IT 賞審査委員会副委員長 一般社団法人沖繩トランスフォーメーション 代表理事 中島 洋</p> <p>受賞者</p> <p>IT 最優秀賞 (マネジメント領域)</p> <p>日本生命保険相互会社/ニッセイ情報テクノロジー株式会社 日本生命保険相互会社 取締役常務執行役員 岸淵 和也 ニッセイ情報テクノロジー株式会社 代表取締役社長 矢部 剛</p> <p>IT 最優秀賞 (トランスフォーメーション領域)</p> <p>株式会社トリドールホールディングス 代表取締役社長 兼 CEO 粟田 貴也</p> <p>【マネジメント領域】</p> <p>IT 優秀賞</p> <p>アセットマネジメント One 株式会社 常務執行役員 IT システム・事務本部長 加藤 昌彦 オリックス生命保険株式会社 IT 本部管掌 執行役員 児玉 英一郎</p> <p>IT 賞</p> <p>アフラック生命保険株式会社 執行役員 デモン・ハウレット コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 ビジネスシステム統括部長 田中 美華子 西日本旅客鉄道株式会社/株式会社 JR 西日本 IT ソリューションズ 西日本旅客鉄道株式会社 取締役兼執行役員 デジタルソリューション本部長 奥田 英雄 株式会社 JR 西日本 IT ソリューションズ 代表取締役社長 田路 耕一 東日本旅客鉄道株式会社 代表取締役副社長 イノベーション戦略本部長 伊勢 勝巳 明治安田生命保険相互会社 取締役 代表執行役副社長 牧野 真也</p> <p>IT 奨励賞</p> <p>東京ガス株式会社 執行役員/東京ガス i ネット株式会社 代表取締役 副社長執行役員 遠藤 陽 パーソルホールディングス株式会社 グループデジタル変革推進本部 本部長 朝比奈 ゆり子 三井住友ファイナンス&リース株式会社 代表取締役専務執行役員 黒田 淳</p> <p>【顧客・事業機能領域】</p> <p>IT 賞</p> <p>ダイキン工業株式会社 サービス本部 東日本コンタクトセンター 東日本コンタクトセンター室長 丸山 俊二 大同生命保険株式会社 取締役常務執行役員 谷口 典江 株式会社ベネッセスタイルケア 代表取締役社長 滝山 真也 三井不動産株式会社 DX 本部 DX 二部 部長 塩谷 義</p> <p>IT 奨励賞</p> <p>株式会社 AMDlab COO/CTO 松原 昌幹</p>
---------------------	---

【社会課題解決領域】

IT 賞

株式会社アイテム 代表取締役社長 松井 里子
ニッセイ情報テクノロジー株式会社 代表取締役社長 矢部 剛
三井住友海上火災保険株式会社/MS&AD インターリスク総研株式会社
三井住友海上火災保険株式会社 取締役 常務執行役員 一本木 真史
MS&AD インターリスク総研株式会社 代表取締役社長 中村 光身

【トランスフォーメーション領域】

IT 優秀賞

横河電機株式会社 常務執行役員 デジタル戦略本部長 舩生 幸宏

IT 賞

イーデザイン損害保険株式会社 取締役兼 IT 企画部長 兼 ビジネスアナリティクス部長 酒井 宜幸
株式会社ベネッセホールディングス 専務執行役員 CDXO 兼 Digital Innovation Partners 本部長
橋本 英知
三菱商事株式会社 執行役員 財務部長 大河原 誠

IT 奨励賞

株式会社アイティ・コミュニケーションズ 代表取締役会長 小金澤 健司
株式会社 TSON 代表取締役社長 加藤 冬樹
三菱 HC キャピタル株式会社 常務執行役員 IT 事務本部 松尾 秀樹

【オープンイノベーション領域】

IT 奨励賞

三井住友海上火災保険株式会社/株式会社アーバンエクステクノロジーズ
三井住友海上火災保険株式会社 取締役 常務執行役員 一本木 真史
株式会社アーバンエクステクノロジーズ 代表取締役社長 前田 紘弥

【ニューノーマルへの対応領域】

IT 優秀賞

文部科学省/エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社
文部科学省 大臣官房政策課 サイバーセキュリティ・情報化推進室 室長 坂本 秀敬
エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 代表取締役副社長 エンタープライズビジネス事業本部長 桑名 正人

IT 奨励賞

MS&AD システムズ株式会社/三井住友海上火災保険株式会社
MS&AD システムズ株式会社 代表取締役社長/三井住友海上火災保険株式会社
常務執行役員 津田 卓也

	<p>【サステナビリティ領域】</p> <p>IT 賞 楽天グループ株式会社 執行役員 AI サービス統括部 ディレクター 大越 拓</p> <p>IT 奨励賞 株式会社三井住友フィナンシャルグループ 執行役員 IT 企画部長 高松 英生</p> <p>2022 年度 SuperSE100 人衆（優秀個人賞）表彰式典</p> <p>【講評】 公益社団法人企業情報化協会 常務理事（株式会社日本総合研究所 特別顧問） 瀧崎 正弘</p> <p>【受賞者】 ニッセイ情報テクノロジー株式会社 品川 輝 株式会社トリドールホールディングス 海老 宏知 アセットマネジメント One 株式会社 深野 真由美 オリックス生命保険株式会社 石倉 一賢 横河電機株式会社 藤原 秀樹 エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 岡本 稔</p>
17:10 ～ 18:30	<p>情報交歓会（受賞記念パーティー・懇親会）</p> <p>挨拶： 公益社団法人企業情報化協会 常務理事（株式会社日本総合研究所 特別顧問） 瀧崎 正弘</p>

(敬称略)

3. 第 2 日目：2022 年 2 月 3 日（金）2022 年度 IT 賞受賞記念講演

A1 9:30 ～ 10:15	<p>【マネジメント領域】</p> <p>IT 優秀賞 「オペレーショナルレジリエンスへの考察と IT システム・事務本部の取り組み」 アセットマネジメント One 株式会社 常務執行役員 IT システム・事務本部長 加藤 昌彦</p> <p>「持続可能な IT の実現を加速する クラウドカスタマージャーニーの実践」 オリックス生命保険株式会社 IT クラウド推進部 主席アプリケーションデザイナー 宇佐美 博志</p> <p>【マネジメント領域】</p> <p>IT 賞 「日本の生命保険業界初の AI を活用したテスト結果 確認ソリューションによるテスト工数の削減」 アフラック生命保険株式会社 システムテスト推進部 部長 歌田 皇一郎</p>
A2 10:25 ～ 11:10	<p>【マネジメント領域】</p> <p>IT 賞 「IT 戦略と End-to-End の取り組み」 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 財務本部 ビジネスシステム統括部 VM デジタルトランスフォーメーション シニアグループ統括部 シニアグループ統括部長 千代田 紀行</p>

	<p>「30年間稼働したレガシーシステムからの脱却 ～鉄道収入管理システム刷新と大幅なコスト削減の実現～」</p> <p>西日本旅客鉄道株式会社／株式会社 JR 西日本 IT ソリューションズ 西日本旅客鉄道株式会社 デジタルソリューション本部 IT 部 課長 丸田 恭弘</p> <p>「鉄道運行に関わる情報の大統一！～全社員が活用する JR 東日本の地図コンテンツ～」</p> <p>東日本旅客鉄道株式会社 イノベーション戦略本部 マネージャー 星 靖夫</p>
<p>A3 11:20 ～ 12:05</p>	<p>【マネジメント領域】</p> <p>IT 賞</p> <p>「最先端の日本語解析技術を活用した Q A 検索ツールの導入による、 迅速なお客さま対応と業務効率化の実現」</p> <p>明治安田生命保険相互会社 デジタル戦略部 デジタル戦略企画 G 主任スタッフ 水野 有香</p> <p>【顧客・事業機能領域】</p> <p>IT 賞</p> <p>「エアコンのメーカーサービス！予測困難な年間業務の繁閑差を人の手を介さず、 最高のサービス品質の提供を！」</p> <p>ダイキン工業株式会社 サービス本部 コンタクトセンター 業務革新グループ 松葉 美咲</p> <p>IT 賞</p> <p>「『つながる手続』の導入～保険手続のカスタマー・エクスペリエンスを変革～」</p> <p>大同生命保険株式会社 カスタマーサービスセンター サービス企画課 課長 村松 陽介</p>
<p>A4 13:15 ～ 14:00</p>	<p>【顧客・事業機能領域】</p> <p>IT 賞</p> <p>「介護の匠『マジ神』のノウハウをシステム化、認知症ケアを支援する『マジ神 AI』の開発」</p> <p>株式会社ベネッセスタイルケア 執行役員 サービス推進本部長 介護 DX 推進部長 祝田 健 介護 DX 推進部 副部長 宮下 ゆかり</p> <p>IT 賞</p> <p>「ららぽーと福岡における、デジタルを活用したサービス革新の取り組み ～次世代型商業施設の実現を目指して～」</p> <p>三井不動産株式会社 DX 本部 DX 二部 DX グループ グループ長 寺田 和仁</p> <p>【社会課題解決領域】</p> <p>IT 賞</p> <p>「スマホによるスケジュール型高齢者見まもりアプリ『ピースサイン』」</p> <p>株式会社アイテム 代表取締役最高デジタル責任者 安川 正勝</p>

<p>A5 14:10 ～ 14:55</p>	<p>【社会課題解決領域】</p> <p>IT 賞 「持続可能な医療保険制度に向けたジェネリック医薬品促進事業の支援による 医療費適正化への取組み」 ニッセイ情報テクノロジー株式会社 ヘルスクエア事業本部 ヘルスクエアコンサルティング営業部 営業部長 柿本 篤史</p> <p>IT 賞 「防災ダッシュボード～気象・災害データ×AI による防災減災支援サービス～」 三井住友海上火災保険株式会社／MS&AD インターリスク総研株式会社 三井住友海上火災保険株式会社 ビジネスイノベーション部 課長 岡崎 紘治</p> <p>【トランスフォーメーション領域】</p> <p>IT 優秀賞 「グローバル自社工場におけるデータ駆動型オペレーションを実現する Digital Factory の取組」 横河電機株式会社 デジタル戦略本部 DX 推進部 デジタルファクトリー課 課長 藤原 秀樹</p>
<p>A6 15:05 ～ 15:50</p>	<p>【トランスフォーメーション領域】</p> <p>IT 賞 「データドリブン経営を推進する CoE の新設 ～お客さまとの共創を目指して～」 イーデザイン損害保険株式会社 ビジネスアナリティクス部 次長 木村 允昶</p> <p>「ベネッセグループの IT・DX 部門の全社統合による事業推進体制の構築」 株式会社ベネッセホールディングス DX コンサルティング部 部長 中学生マーケ・営業部 広報部 広報課 水上 宙士</p> <p>「コーポレート DX の取組み～為替取引業務における業務効率化/為替コスト削減の実現～」 三菱商事株式会社執行役員 財務部長 大河原 誠</p>
<p>A7 16:00 ～ 16:30</p>	<p>【ニューノーマルへの対応領域】</p> <p>IT 優秀賞 「クラウドをフル活用した OA 環境刷新により 働き方改革を推進」 文部科学省／エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 文部科学省 大臣官房政策課 サイバーセキュリティ・情報化推進室 室長 坂本 秀敬 エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 ネットワーククラウド事業本部 サービスプロバイダ部 MSP-BU 担当課長 岡本 稔</p> <p>【サステナビリティ領域】</p> <p>IT 賞 「カーボンニュートラルを目指す 先進ロジスティックシステム開発」 楽天グループ株式会社 楽天技術研究所 カスタマー-Geo サイエン্সグループ Research Scientist 増谷 修</p>

(2) IT ソリューションセッション (オンライン・アーカイブ配信)

B : DX 実現のための主要成功要因を探る/C:AI・ビッグデータ・クラウド活用のビジネス革新動向/D:デジタル技術を活用した新しいワークスタイル変革/E:環境変化に応える組織体制とクラウド&セキュリティ、SX 最新事情 /SP:IT コア人材ネットワーク交流会セッション

B1	IT 奨励賞受賞(顧客・事業機能領域) 「建築業界の DX を推進 ～データによる設計プロセスの変革と建築 DX 人材の育成～」 株式会社 AMDlab COO/CTO 松原 昌幹
B2	IT 奨励賞受賞(オープンイノベーション領域) 「ドラレコ・ロードマネージャー～産学官連携 DX で道路点検をサポート～」 三井住友海上火災保険株式会社/株式会社アーバンエクステクノロジーズ 三井住友海上火災保険株式会社 ビジネスイノベーション部 課長 堀野 正臣
B3	「DX 時代に陥りやすい情報収集の罠-プロが教えるリモート時代の情報収集術-」 株式会社日本能率協会総合研究所 MDB 事業部 次長 長井 良平
B4	「DX 戦略のフラグシップ本庄工場 H1 棟～製造 DX, カーボンゼロの取り組み～」 沖電気工業株式会社 ソリューションシステム事業本部 本庄工場長 篠原 誠一
B5	「首都圏約 600 駅における駅の利用動向を示す JR 東日本の『駅カルテ』、 及び日立『Station Finder for Area Marketing』のご紹介」 東日本旅客鉄道株式会社/株式会社日立製作所 東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部戦略・プラットフォーム部門 データマーケティングユニット マネージャー 石田 雄一 株式会社日立製作所 社会システム事業部 交通情報システム本部 交通デジタルソリューションセンタ 主任技師 小池 恵
B6	「建設現場の働き方を変える～ドコモビジネスが進める建設 DX 事例～」 NTT コムウェア株式会社 NTT コムウェア株式会社 ビジネスインキュベーション本部 ビジネスインキュベーション部 プロダクト創出部門 担当課長 松本 郷史 NTT コミュニケーションズ株式会社 ビジネスソリューション本部 スマートワールドビジネス部 スマートコンストラクション推進室 担当課長 中島 厚生
B7	「ヨーロッパの DX 最新事情 ～保険会社の事例から～」 Sollers Consulting 株式会社 ビジネスコンサルティング部 日本事業プロジェクトマネージャー兼 コンサルタント 徳田 愛里 ビジネスコンサルティング部 シニアコンサルタント Rafał Bilicz
B8	「JEIS の目指す JR グループ貢献と当社の将来営業方針」 株式会社 JR 東日本情報システム 取締役 営業部長 吉川 浩史
B9	「DX により激変する世界」 富士通株式会社 戦略企画 シニアエバンジェリスト松本 国一
B10	「デジタル×オペレーショナルエクセレンスによる競争優位性の獲得の要諦」 株式会社 Regrit Partners コンサルティング事業部 執行役員 Principal 土田 敬太

C1	IT 奨励賞受賞(トランスフォーメーション領域) 「不動産ビッグデータ分析システム『勝率一番』による不動産ファンド事業の構築 (DXによるビジネスの創出)」 株式会社 TSON 取締役 テック事業部 部長 小間 幸一
C2	IT 奨励賞受賞(マネジメント領域) 「機械学習モデルを用いた AI 自動審査システムの開発」 三井住友ファイナンス&リース株式会社 データマネジメント部 アナリティクスチーム チームリーダー 加月 佳子
C3	IT 奨励賞受賞(トランスフォーメーション領域) 「AI バーチャルエージェントによる コールセンターの DX ソリューション」 株式会社アイティ・コミュニケーションズ 取締役本部長 大塚 隆博
C4	「自然言語処理技術 BERT の活用と実践」 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 マーケティング企画部 新規技術推進課 課長 渥美 秀彦
C5	「5G/IoT の最新サービス動向とビジネス社会基盤化に向けた取り組み」 N T T コミュニケーションズ株式会社 5G&IoT サービス部 ドローンサービス部門長 エバンジェリスト 柏 大
C6	「データドリブン経営を加速させる基幹システムの在り方 - SCSK のクラウド ERP『ProActive』とは -」 SCSK 株式会社 ソリューション事業グループ ProActive 事業本部 ビジネス推進部 部長 五月女 雅一
C7	「スモールスタートで既存資産を素早くつなぎ 気づきを与えるデータ活用 ～MSR が提案するデータ活用プラットフォームのご紹介 (社内事例)～」 三井 E&S システム技研株式会社 DX 推進部長 多賀 洋志
C8	「NEC が進めるデータドリブン経営 ～コーポレートトランスフォーメーションとデータの民主化～」 日本電気株式会社 コーポレートトランスフォーメーション部門 DX 戦略統括オフィス ディレクター 秋田 和之
D1	IT 奨励賞受賞(マネジメント領域) 「IT 部門発！スモールスタートで始めたデータ基盤で 隠れたユーザーニーズをキャッチ！リーンの利活用を実現」 パーソルホールディングス株式会社 ビジネス IT アーキテクト部 兼 DX 企画部 部長 中桐 亮
D2	IT 奨励賞受賞(ニューノーマルへの対応領域) 「ワークフローシステムのさらなる活用 ～初期構築時の対象業務数 13 から 700 超への大幅拡大に向けた取組～」 MS&AD システムズ株式会社 / 三井住友海上火災保険株式会社 MS&AD システムズ株式会社 デジタルシステム本部 デジタルシステム部 デジタル共通グループ エンジニア 本村 直樹
D3	IT 奨励賞受賞(マネジメント領域) 「導管事業の法的分離に伴うシステム対応」 東京ガス株式会社 東京ガス i ネット株式会社 I T 推進部 I T 推進グループ マネージャー 工藤 千温

D4	IT 奨励賞受賞(トランスフォーメーション領域) 「統合初年度における IT サービスの再構築及び 事務の生産性向上の取組について」 三菱 HC キャピタル株式会社 事務部 部長 八木原 朗
D5	「パイオニアが語る、VOC 起点のデジタル CS の挑戦と軌跡」 カラクリ株式会社 Customer Relationship Group Manager 佐伯 朋嗣 パイオニア株式会社 経営戦略本部 CMO 兼 モビリティ・コンシューマーカンパニー NP 事業品部マーケティング・CX・CS 戦略部長 井上 慎也
D6	「働き方 DX 時代のカギとなる、オンラインでのコミュニケーション品質向上の方法」 Neatframe 株式会社 代表取締役 柳澤 久永
D7	「戦略的 IT 投資を実現する Technology Business Management (TBM) と Apptio のご紹介」 Apptio 株式会社 執行役員 営業本部 営業本部長 小倉 和則
D8	「スマートオフィスでつなげていく DX 時代のコミュニケーション改革」 エクシオグループ株式会 ソリューション事業本部デジタルコンサルティング本部 担当部長 阿部 宏和
D9	「従業員教育/研修での動画活用で生産性が劇的に変わる!?!」 Video Touch 株式会社 代表取締役 CEO 上坂 優太
D10	「新時代の働き方を切り拓く、クラウド電話「Zoom Phone」活用コミュニケーション術」 ZVC JAPAN 株式会社 執行役員 Zoom Phone 営業本部長 大槻 剛士 Zoom Phone 日本市場展開担当部長 吉田 馨一
E1	IT 奨励賞受賞(サステナビリティ領域) 「SMBC グループにおける脱炭素×デジタル化支援の取組み ～Sustana～」 株式会社三井住友フィナンシャルグループ デジタル戦略部 部長代理 長山 奨尉
E2	「製品単位カーボンフットプリントのルール化の潮流と産業界の対応」 株式会社野村総合研究所 ヘルスケア・サービスコンサルティング部 エキスパートコンサルタント 高藤 直子
E3	「サイバー攻撃に対する従業員のアウェアネス向上を実現するには？」 ～世界最大クラウド型セキュリティアウェアネス 向上プラットフォーム“KnowBe4”の活用事例ご紹介～」 株式会社電通国際情報サービス 金融ソリューション事業部 戦略アライアンス部 プロジェクトディレクター 赤澤 卓真
E4	「変革時代に必要な安定的な変化対応力とは」 株式会社 NTT データ 製造 IT イノベーション事業本部 第一製造事業部 第一統括部長 布井 真実子
E5	「事業貢献のためのクラウド利活用と CCoE の役割」 KDDI 株式会社 DX 推進本部 ソフトウェア技術部 システムデザイン G コアスタッフ 柴田 翔平

E6	<p>「社員が楽しんで参加できるウェルネス経営 ～チームで取り組む持続可能な新しい取り組み～」 株式会社アツラエ 取締役 有海 哲也</p> <p>「人と街の「個性」を可視化！ペルソナ分析ツール LOGIO とは？」 ～分析を支える大規模なスポットデータを保有する タウンページデータベースとともに～」 NTT タウンページ株式会社 データベース開発部 事業推進部門 部門長 江田 勝憲 株式会社ジェーエムエーシステムズ 事業企画部 部長 傳寶 幸宏</p>
E7	<p>「"USB メモリはリスクが満載！ 基幹系ネットワークを守る、安全で便利なファイル授受方法とは"」 株式会社プロット 常務取締役 坂田 英彦</p>
SP	<p>第 14 期 IT コア人材ネットワーク交流会成果報告 異なる業種、職種の参加者同士の交流を通じて 5 ヶ月間に渡り討議し、最終回でグループ発表会を実施。発表タイトルは以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭の食品ごみを削減するアイデア～ロスカットレシピ～ ・ ULTIMATECITY を作れ！～究極のマイナンバーチップを使った究極のコンセプトシティ～ ・ 選挙の投票率を上げる

■ オープニングセッション

主催者挨拶

公益社団法人企業情報化協会 副会長
第 38 回 IT 戦略総合大会企画委員会 副委員長
(株式会社 NTT データ 代表取締役副社長)
山口 重樹



基調講演

「ヤマトが進める DX 戦略」

ヤマトホールディングス株式会社 特別顧問 山内 雅喜
(公益社団法人企業情報化協会 会長)



基調講演

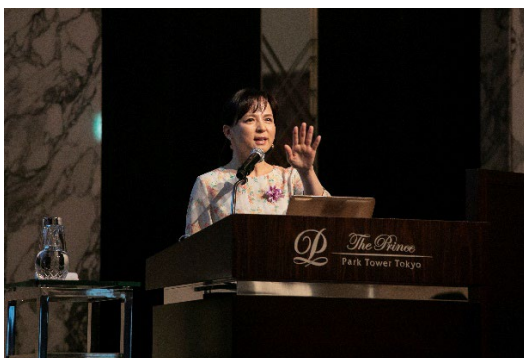
「デジタル変革と経営」

SOMPO ホールディングス株式会社 グループ CEO 取締役
代表執行役会長 櫻田 謙悟



特別講演

「『学び直し』のすすめ～新たなキャリアを切り拓く～」
女優・経営者・研究者 いう まい子



2022 年度 IT 賞受賞企業記念講演

IT 最優秀：

IT 最優秀賞（マネジメント領域）

「グループ体での IT・デジタル人材育成体制構築

～内製化により 3000 名をサステナブルに育成～」

日本生命保険相互会社／ニッセイ情報テクノロジー株式会社

日本生命保険相互会社 取締役常務執行役員 岸淵 和也



IT 最優秀賞：

（トランスフォーメーション領域）

「トリドールの DX ～SaaS、DaaS、BPO、ゼロトラストで構築する
ビジネスプラットフォーム～」

株式会社トリドールホールディングス BT 本部

執行役員 兼 CIO 兼 CTO 磯村 康典



■ 2022 年度 I T 賞受賞企業表彰式典

・IT 賞審査委員会副委員長 一般社団法人沖縄トランスフォーメーション 代表理事 中島 洋



2022 年度 IT 賞受賞企業代表者記念写真



■ 2022 年度 SUPER SE 100 人衆 表彰

公益社団法人企業情報化協会 常務理事

株式会社日本総合研究所 特別顧問 瀧崎 正弘



受賞者：

ニッセイ情報テクノロジー株式会社 品川 輝

株式会社トリドールホールディングス 海老 宏知

アセットマネジメント One 株式会社 深野 真由美

オリックス生命保険株式会社 石倉 一賢

横河電機株式会社 藤原 秀樹

エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 岡本 稔

■ 2022 年度 SUPER SE 100 人衆写真



II. 企画委員

委員長

山内 雅喜 ヤマトホールディングス株式会社 特別顧問

副委員長

山口 重樹 株式会社 NTT データ 代表取締役副社長執行役員

淵崎 正弘 株式会社日本総合研究所 特別顧問

委員

大槻 靖 株式会社 IHI エスキューブ 代表取締役社長

青柳 敏夫 株式会社伊藤園 情報管理部 部長

上田 達也 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 東日本統括本部 東日本営業第 4 部 部長

為貝 文彦 株式会社インターネットイニシアティブ サービスプロダクト推進本部 プロモーション部長

饗庭 忍 株式会社インテジテクノスフィア 代表取締役社長

安藤 穰 インフォシス リミテッド Marketing Manager

吉本 浩二 株式会社 STNet 上席理事 経営企画室長

椿 茂樹 株式会社 NTT データセキスイシステムズ 代表取締役執行役員

塚田 章智 NRI システムテクノ株式会社 取締役副社長

矢木 義規 NEC ソリューションイノベータ株式会社 IT・業務改革推進部 主席主幹

高橋 哲也 NEC ネットエスアイ株式会社 営業統括本部 ビジネスプロセスイノベーション推進本部 本部長代理

岡部 匡雄 NTT コムウェア株式会社 EB 事業本部 事業企画部 部長

吉田 勇一 株式会社 NTT データ 法人事業推進部 事業推進部長

辻 一成 株式会社エフタイム 代表取締役社長

山崎 純 MS&AD システムズ株式会社 取締役 副社長 執行役員

山口 健 株式会社オージス総研 取締役常務執行役員 技術統括 技術部長

橘川 史朗 株式会社オカムラ 情報システム部 部長

高橋 裕之 沖電気工業株式会社 情報通信事業本部 企画管理部 戦略チーム スペシャリスト

大谷 淳 株式会社オプテージ ソリューション事業推進本部 SI ソリューション統括部 部長

岩田 彩子 オリックス生命保険株式会社 IT 業務管理部長

榎本 雅幸 川崎重工業株式会社 DX 戦略本部 サイバーセキュリティ統括部 統括部長

上田 晃穂 関西電力株式会社 IT 戦略室 IT 企画部長

下村 匡 株式会社関電システムズ 代表取締役社長

山中 尚美 九電ビジネスソリューションズ株式会社 執行役員 経営企画室長

飯田賢一郎 株式会社キューブシステム 常務執行役員

廣瀬 拓生 協和キリン株式会社 ICT ソリューション部 部長

藤原 敏高 クボタシステムズ株式会社 クボタソリューション事業本部 KS 第二事業部長

小嶋 政彦 グローリー株式会社 経営戦略本部 Bridge P/T プロジェクトリーダー

古宮 裕也 KDDI 株式会社 ソリューション事業本部 ビジネスデザイン本部 企画統括部長

今村 康弘 ServiceNow Japan 株式会社 マーケティング本部 本部長

田中 陽 Sansan 株式会社 執行役員 ビジネス統括本部 副本部長 オフィス戦略部 部長

村上 仁紀 株式会社サンソウシステムズ 代表取締役社長
 小野 伸司 株式会社ジェイアール東日本企画 常務取締役 経営企画局長
 出口 裕之 株式会社 JR 東日本情報システム 取締役 企画部長
 坂倉 猛 株式会社ジェーエムエーシステムズ 代表取締役社長
 小林 祐治 全日本空輸株式会社 デジタル変革室 企画推進部 部長
 月城 豪夫 ソフトバンク株式会社 法人事業統括 鉄道事業推進本部 本部長
 岸 正之 S O M P Oシステムズ株式会社 IT サービス部 シニアアドバイザー
 松山 竜蔵 大和ハウス工業株式会社 情報システム部 執行役員
 小原 圭介 中外製薬株式会社 デジタルトランスフォーメーションユニット IT ソリューション部長
 熊谷 典夫 千代田工商株式会社 IT 業務部 部長
 池田 孝行 鉄道情報システム株式会社 常務取締役 経営企画部長
 沼田 克彦 株式会社テプコシステムズ 取締役 常務執行役員
 細井 武彦 株式会社テラスカイ クラウドインテグレーション営業本部 常務執行役員 本部長
 山本 有志 デロイトトーマツコンサルティング合同会社 テクノロジーストラテジー・トランスフォーメーション 執行役員
 歌門 正師 東京海上日動火災保険株式会社 IT 企画部 理事 部長
 関 邦夫 東京海上日動システムズ株式会社 代表取締役社長
 嶋谷 あゆみ 東京ガス株式会社 常務執行役員 CIO
 能丸 実 日産自動車株式会社 グローバル IS/IT 理事 経営企画室長 兼 事業企画部長
 岩下 輝彦 日清食品ホールディングス株式会社 情報企画部 課長
 竹本 重洋 ニッセイ情報テクノロジー株式会社 執行役員
 中田 俊彦 日本電気株式会社 DX 戦略統括オフィス シニアディレクター
 渡 秀政 日本たばこ産業株式会社 IT 部長
 市川 真大 株式会社日本能率協会マネジメントセンター 総務部 ICT 推進室長
 狭間 崇 日本ヒューレット・パカード株式会社 執行役員 経営企画統括本部長
 岡本 圭司 日本マイクロソフト株式会社 モビリティサービス事業本部 交通・物流営業本部 本部長
 鶴飼 拓男 パナソニックコネクト株式会社 現場ソリューションカンパニー スマートシティ・MaaS 推進部 部長
 佐藤 勲 東日本旅客鉄道株式会社 イノベーション戦略本部 デジタルビジネスユニット ユニットリーダー
 渥美 裕介 株式会社日立製作所 デジタルシステム&サービスビジネス統轄本部 経営戦略統轄 渉外本部 部長
 田中 聡 FITEC 株式会社 代表取締役副社長
 鶴田 泰史 株式会社プリマジエスト サービスデザイン統括部 統括部長
 長谷 太志 Blue Prism 株式会社 社長
 森重 利文 三井 E&S システム技研株式会社 代表取締役社長
 高山 智生 三菱電機株式会社 プロセス・オペレーション改革本部 IT システム推進室 執行役員 室長
 前田 宏明 明治安田生命保険相互会社 情報システム部長
 柴田 裕介 ヤマトホールディングス株式会社 デジタル戦略推進機能 マネージャー
 船生 幸宏 横河電機株式会社 執行役員 デジタル戦略部長 (CIO)
 鈴木 周志 横河レンタ・リース株式会社 取締役 専務執行役員
 杉浦 享 理研ビタミン株式会社 草加工場生産技術課 課長
 菅田 康朗 レシップホールディングス株式会社 管理本部 情報システム部長

敬称略・会社・団体名 50 音順 2022 年 6 月現在

III. 協賛企業

Apptio 株式会社／伊藤忠テクノソリューションズ株式会社／エクシオグループ株式会社／SCSK 株式会社／NTT コミュニケーションズ株式会社／NTT コムウェア株式会社／株式会社 NTT データ／
沖電気工業株式会社／カラクリ株式会社／KDDI 株式会社／株式会社 JR 東日本情報システム／
株式会社ジェーエムエーシステムズ／Sollers Consulting 株式会社／株式会社電通国際情報サービス／Neatframe 株式会社／日本電気株式会社／株式会社日本能率協会総合研究所／
株式会社日本能率協会マネジメントセンター／株式会社野村総合研究所／株式会社日立製作所／
富士通株式会社／三井 E&S システム技研株式会社／株式会社プロット／株式会社 Regrit Partners／
VideoTouch 株式会社／ZVC JAPAN 株式会社 (Zoom)

合計 26 社

(敬称略・会社・団体名 50 音順)

IV. 2022 年度 IT 賞受賞記念講演 概要

IT 最優秀賞（マネジメント領域）

日本生命保険相互会社/ニッセイ情報テクノロジー株式会社

「グループ一体での IT・デジタル人材育成体制構築～内製化により 3000 名をサステナブルに育成～」

日本生命保険相互会社 取締役常務執行役員 岸淵 和也

デジタル技術の進展や顧客ニーズの多様化・高度化により、IT・デジタル人材の獲得および育成は各社にとって必須命題となっている。

日本生命グループには約 3,000 名の IT 人材が在籍しているが、ノウハウを持った人材の高齢化、新技術への対応、各社での育成のバラツキ、そして「2025 年の崖」問題等、様々な課題を抱えていた。これに対処するために、日本生命保険相互会社（以下「日本生命」）とニッセイ情報テクノロジー（以下、NIT）は共同でグループ全体の IT 人材を育成するプロジェクトを立ち上げた。

グループ全体といっても、グループ各社の IT 人材の構成、特性、抱えている課題、求められる人材像は各社それぞれ異なる。日本生命と NIT は研修プログラムの「内製化」にこだわり、各社の特性とニーズに合った研修体制をきめ細かく構築していった。

一方、グループ全体としては、戦略出向や交流イベント実施等によってグループ会社のナレッジ共有と、シナジー創出を図った。日本生命の清水社長もグループ各社が集う座談会に参加し、この動きを加速する大きな契機となった。

本プロジェクトにおいて、日本生命は主として「ハード面」を、NIT は主として「ソフト面」を担当した。ハード面では、2022 年 3 月に IT 人材育成研修施設「TREASURE SQUARE」を竣工し、ソフト面では NIT のこれまで蓄積したノウハウを、100 を超える教育コンテンツとして水平展開した。

コロナ禍で多くの研修やミーティングがオンラインで行われるようになったが、日本生命は「対面の持つ効果」も重視し、TREASURE SQUARE はリアルとオンラインの両方の良さを生かせるようなハイブリッド構造になっている。

NIT の教育コンテンツは、単なる IT の知識の授与にとどまらず、ビジネススキルやヒューマンスキル、発注者としての IT/DX スキル、機械学習などの最新技術、部長/役員向けの勉強会やプログラミング研修等、非常に幅広い範囲をカバーしている。

IT 人材育成と獲得は、金融・保険業界のみならず、日本企業全体が抱えている大きな課題であり、その成否が企業、ひいては日本の国際競争力を大きく左右する。日本生命の取り組みは IT 人材育成・獲得に苦慮する日本企業の一つの範となるものであり、IT 最優秀賞にふさわしいと考える。

IT 最優秀賞（トランスフォーメーション領域）

株式会社トリドールホールディングス

「トリドールの DX～SaaS、DaaS、BPO、ゼロトラストで構築するビジネスプラットフォーム～」

BT 本部 執行役員 兼 CIO 兼 CTO 磯村 康典

いかなる価値を、どのように実現するか、そのために企業独自の組織ケイパビリティをいかに形成するかは、すべての企業の根幹となる課題である。

トリドールでは、「食の感動で、この星を満たせ。」をスローガンに掲げ、感動体験を追求するうえで、「手間暇かけてこだわって展開」する側面と「スピーディーに効率的に展開」する側面という時間軸、「そこでしかできない体験」という特定の場と「世界中どこでもできる体験」というグローバルな場という空間軸の設定を行ったうえで、これらの軸に基づいて、「食の感動」を実現するために、明確なビジョンのもとで、ヒト、組織、技術の融合による新たな構想を設計し、これを実践している。

トリドールでは、ヒトでしか行えない感動体験の部分ではヒトの役割の拡張を図るべく、SaaS、DaaS を業務プロセスの適材適所に組み込むことによって、時間軸と空間軸に基づいて業務プロセスを革新し、メリハリのある組織的仕組みを創り出すことに成功した。トリドールの実践の特筆すべき点は、ビジネスプラットフォームを SaaS、DaaS、BPO、ゼロトラストネットワーク等の柔軟な組み合わせによって構築しようとする DX への取り組みのみならず、ヒト、組織、技術のすべてを、向かうべき価値の実現にベクトル合わせを行うことで、それぞれの要素がもつ効果の総和以上の、組み合わせのシナジー効果、創発効果を明確に生み出していることにある。

価値の実現への明確な構想に基づき、ヒト、組織、技術を融合することで、高度な組織ケイパビリティを形成している、他社の模範となる事例である。よって IT 最優秀賞にふさわしいものとして高く評価する。

【マネジメント領域】

A1-1 : IT 優秀賞 (マネジメント領域)

アセットマネジメント One 株式会社

「オペレーショナルレジリエンスへの考察と IT システム・事務本部の取り組み」

常務執行役員 IT システム・事務本部長 加藤 昌彦

アジアで最大級の運用資産残高を有する同社は、2000 ファンドのうち 1300 を毎日再計算して、販売会社やマスメディア、投資信託協会など各方面に基準価格を公表している。万一、何らかの障害やトラブルが発生し、発表が遅れたり実施できなかったりすると各方面に多大な迷惑をかけ、影響を及ぼす可能性がある、“経済インフラ”とも言えるサービスである。しかし様々な人や組織、システムなどが関係するサービスだけに、トラブルを完全にゼロにすることは不可能である。もし何らのトラブルが起きた時、適切に対応するにはどうすればいいだろうか？

この難題に対して同社は、トラブル発生の可能性を具体的にチェックし、発生時の対応を整理するアプローチを採用した。具体的にはまず基準価格算出・発表に関する一連の業務プロセスを子細に可視化する。プロセスといっても工程は 300 にも上り、すべてを理解している人は皆無だったというが、6 ヶ月を費やして、どの工程でトラブルが起こり得るか、トラブルが起こった時、どう対応するかを整理した。並行して、すべてのファンドの基準価格がそろわないと発表しなかった決まりを変更し、数件の価格算出が遅れても発表するようにした。

同社はこの取り組みをレジリエンス（回復力）のための「剛構造」と「柔構造」と表現している。剛構造はトラブルが起きないように仕組みやプロセスを整えること。柔構造はトラブルが起きた際に回復するようプロセスを整備し、例えば対外的な広報や顧客対応を充実させることである。日本企業においては、とすれば剛構造一辺倒でシステムを作り込んだり人材を配置したりし、品質を徹底追求する。そのためトラブルの発生時の対応や回復はおざなりになりがちという問題がある。しかし現実には、どれだけ剛構造を強化してもトラブルは起こるので柔構造は重要である。このような考えは本案件を主導した人材が以前に勤務していた親会社の銀行における経験から来ている。こうした点で同社の取り組みは銀行などの金融機関やネット企業、運輸や電力など多くの公益企業にも重要な示唆を提供すると考えられる。これを評価して IT 優秀賞に相当すると判断する。

A1-2 : IT 優秀賞 (マネジメント領域)

オリックス生命保険株式会社

「持続可能な IT の実現を加速する クラウドカスタマージャーニーの実践」

IT クラウド推進部 主席アプリケーションデザイナー 宇佐美 博志

オリックス生命保険株式会社は、昨年創業 30 周年を迎え、これまで成長を遂げてきたが、それに合わせて作ってきたシステムの老朽化も進んでいた。そこで、今後の持続的な成長を支えるため、10 年後の IT のあるべき姿を見据え、オンプレミスからク

クラウドにシフトを行うことにした。クラウドシフトにあたっては、クラウドサービスを正しく理解・導入・活用することが不可欠であることから、クラウドに関わるライフサイクル活動を探求・エンゲージ・オファー・合意・オンボード・共創・具現の7つのステップからなる「クラウドカスタマージャーニー」として定義することで、早期かつ持続的なIT価値の創出を実現している。

まず、クラウドサービスを正しく使うために、原理原則を会社全体で決めている。使う段階でやめることを考えることや、いつでも替えることができるようにロックインのリスクを軽減するための工夫をすることや、日々アップデートされる機能や技術をキャッチアップし続けるコミュニティを構築すること等を決めている。また、成功者だけでなく失敗経験を持つ有識者らによるアドバイザリーボードの運営、稼働15年レコード数5億超のオンプレCRMのSaaS標準機能での移行、anywareオペレーションのためのSASEの導入、クラウドは落ちることを前提としクラウドベンダより早く障害検知できる監視体制の確立、いたずらにアプリを開発しないようにローコード開発のための設計ガイドの作成、数百ある業務の構成を管理および監視できる仕組みの構築など、クラウドシフト・リフトのための取り組みを行っている。

今回の取り組みは、クラウドシフトを考えている企業のお手本になる取り組みであり、IT優秀賞に値すると評価する。

A1-3 : IT 賞 (マネジメント領域)

アフラック生命保険株式会社

「日本の生命保険業界初のAIを活用したテスト結果 確認ソリューションによるテスト工数の削減」

システムテスト推進部 部長 歌田 皇一郎

アフラック生命保険株式会社（以下「アフラック生命」）は、AIがテストケースとテストエビデンスを照合させ、テスト結果の検証を完全自動化する“AI Testing”を開発した。

AI TestingはAI-OCR(*1)とテンプレートマッチング(*2)を組み合わせた同社独自のAIアルゴリズムを用いており、テスト結果の検証の完全自動化は日本の生命保険業界初のことである。

その結果、①テストケースとテストエビデンスの照合を繰り返し行う手間②テスト担当者による誤認識リスク③テスト担当者が項目を検索する手間を解消した。

同社は、このテスト結果の検証の完全自動化により、年間8,500時間のテスト工数削減を見込んでいる。また、これまで、日本（3拠点）、中国、マレーシアの計5拠点で、180名のテスト担当者が実施していたテスト確認作業を、東京の1拠点に集約することができた。

さらに今後は、テスト設計・テストケース作成・フィードバックの各工程を自動化し、将来的には年間15万件のテストを完全自動化することを目指している。

変化が激しく厳しい競争にさらされている生命保険会社にとって、様々なステークホルダーへ新たな価値を提供し続けるためには、商品・サービスを柔軟、迅速、かつ低コストで提供しなければならない。そのためには新しいシステム開発が必須だが、システム開発には膨大なテスト工程が必要で、特に間違いの許されない金融・保険業界においてはそのロードは大きい。

アフラック生命は、テスト工程を自動化することによってシステム開発を効率化し、新たなニーズや環境変化に迅速に対応することを可能とするとともに、確認漏れなどを減らし、これまで以上に高品質なサービスを提供できるようになった。また、テストの自動化によって不要な作業が減り、企画検討や人材育成など、より付加価値の高い新たな業務に取り組む時間が創出された。

業界初のAIによるテスト完全自動化により、システム開発のスピードと質を向上させただけでなく、それを迅速な商品・サービスの開発と提供につなげ、またテスト作業に従事していた人員の働き方を変革し、その結果業務拡大への対応も実現している。この点を評価し、アフラック生命はIT賞（マネジメント領域）にふさわしいと考える。

*1 AI技術を活用したOCR（Optical Character Recognition、光化学文字認識）の仕組み

*2 物体の一部が写ったある画像を元に、全体の写った画像の中でどこにその一部分が該当するかを認識する方法。

A2-1:IT 賞 (マネジメント領域)

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

「IT 戦略と End-to-End の取り組み」

財務本部 ビジネスシステム統括部 VM デジタルトランスフォーメーション

シニアグループ統括部 シニアグループ統括部長 千代田 紀行

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは、どのようなビジネスにも「売る:Sell」と「売るサポート:Help Sell」の2つの役割しかないと考えている。IT 部門は「売るサポート:Help Sell」という立場であることを明確にして、販売製品を消費者の手元に届けるまでに必要な①IT 基盤～②造る～③運ぶ～④売る～⑤お客さま対応のプロセスの絶えざる革新に取り組んでいる。

①IT 基盤においては、過去の大規模障害の反省から、バックアップまでの所要時間を 90 時間から 10 時間に短縮、RPO (データ復元) を 24 時間から 1 時間へ抜本的に改善した。

②造る工程においては、水とエネルギーの節約に取り組み、製造情報の可視化によるオペレーションの効率化、品質・稼働状況の管理帳票の電子化を推進、エネルギー・水の利用状況を製造ライン・製品ごとに可視化を実現。資源の最小化への取り組みを加速させた。

③運ぶ工程では、手作業が多数残っていたメガディストリビューションセンターの完全自動化を実現、手作業・管理業務にかかっていた投入時間をロボットの導入やプロセスのデジタル化を通じて、技術業務への時間に振り向けることを可能にした。

④売る工程では、住所情報を主体としていた自動販売機(約 70 万台)の位置情報を GPS センサーでデジタル精度を上げ、コカ・コーラ公式アプリ「Coke On」のマップ上での可視化を実現、製品補充並びに修理担当者の仕事の効率化、自動販売機の場所特定による利用者の利便と販売促進につなげている。

⑤お客さま対応のコンタクトセンターの働き方改革を進め、テレフォニーインフラなどの刷新により、委託・派遣社員を含め 90% のオペレーターが在宅勤務を実現。社員の安全確保とともにセンター拠点閉鎖のコスト削減のメリットも期待できるまでになった。

全国網の大きな組織において、インフラ・製造・物流・販売・顧客対応まで、一環して「売るサポート:Help Sell」としての使命を追求する活動を高く評価し、IT 賞とする。

A2-2 : IT 賞 (マネジメント領域)

西日本旅客鉄道株式会社/株式会社 JR 西日本 IT ソリューションズ

「30 年間稼働したレガシーシステムからの脱却」

～鉄道収入管理システム刷新と大幅なコスト削減の実現～

西日本旅客鉄道株式会社 デジタルソリューション本部 IT 部 課長 丸田 恭弘

西日本旅客鉄道株式会社は、今回、最後の大規模なレガシーシステムとして残っていた鉄道収入管理システムを、3 年間をかけて刷新を行った。鉄道収入管理システムは 1992 年に開発されたもので、開発当時は業務を変革する画期的なシステムとして、IT 賞の全身である総合 OA 賞を受賞している。総合 OA システムとしての業務の変化もあまりなく、技術者の確保もできており、ハード更新により維持費も低減していたことから、刷新による投資効果が見出だせず、長い期間残存することになってしまっていた。

しかし、さすがに 30 年が経過し、採用技術の陳腐化、ソフトウェア資産の巨大化、技術人材不足によりブラックボックス化が進む等、課題顕在化してきていた。そこで、2018 年に構想を立て、2019 年から 3 年間にわたるプロジェクトを通して今回刷新を行った。レガシーマイグレーション方式としては、既存資産(COBOL や IDL II など)を他言語(主に Java)に書き直し、現行処理を担保した上で改善要望を取り入れるシステムリフォームの方式を採用している。設計書等のドキュメントも不足していたため、ソースコードからリバースエンジニアリングを行って設計書を作成している。旧システムの仕様・ロジックを踏襲してプログラ

ム変換することでリスクを回避し、また、テスト工数についても、旧と新システムを比較すればよく開発工数も削減することができた。また、オフショア開発を利用することで人件費を低減させることができた。開発費用は 1990 年と比較して約半分で済み、運用費用も年間 1.7 億円の削減が見込める。

今回の刷新により、採用技術の汎用化・標準化により技術者の安定確保が可能になった。また、不要ソフトウェア資源の削減によって保守が向上し、仕様を可視化することによって確実な技術継承が可能になった。今回はリスク回避のため仕様・ロジックなどを旧システムのを踏襲して、DX の業務改革についてはこれからの取り組みとなるが、最後に残っていたレガシーシステムを問題なく刷新し安定運用していることは、IT 賞に値すると評価した。

A2-3 : IT 賞 (マネジメント領域)

東日本旅客鉄道株式会社

「鉄道運行に関わる情報の大統一！～全社員が活用する JR 東日本の地図コンテンツ～」

イノベーション戦略本部 マネージャー 星 靖夫

鉄道をはじめホテル、商業施設運営など、幅広い分野に事業を広げてきた同社は、組織の大規模化とともに、それぞれの事業部署で分散的にデータを蓄積してきた。しかし、グループの経営力を強化し、業務改革を進めるためには「社内データを横断的に利活用可能な共通情報基盤」を構築した。その基盤のデータを活用し、鉄道運行安全管理を推進する地図コンテンツとして全社員が活用できるシステムを構築した。

様々な手段で収集してきた社内外の情報を一つの画面で表示してどの部署でも素早的的確に把握できるのが特色。このため、情報デザインに注力、わかりやすい UI によって、経営陣から現場社員を含めた全社員が活用しやすいものになっている。社内外データを自動連携、リアルタイムに地図に重ね合わせることで、素早的的確な情報収集を行い、状況を判断、的確な意思決定をサポートできるようになった。平常時の安全で安定的な鉄道運行を支えるとともに、大雨や地震発生等の災害発生時、さらに防災訓練にも効果を発揮し、業務の変革に寄与してきている。

地図上の投入データを汎用化しているため、鉄道運行関係以外の情報、例えば商圈分析用データ等も投入できる。次の段階では鉄道運行状況や車両ごとの混雑状況などの乗客への情報提供や駅周辺の商業施設や観光情報とリンクさせて地域の活性化を促すツールへと進化する可能性も秘めており、IT 賞に値するシステムだと認め、表彰する。

A3-1 : IT 賞 (マネジメント領域)

明治安田生命保険相互会社

「最先端の日本語解析技術を活用した Q A 検索ツールの導入による、迅速なお客さま対応と業務効率化の実現」

デジタル戦略部 デジタル戦略企画 G 主任スタッフ 水野 有香

生命保険は保障期間が長期に及び、契約時点の約款に基づき事務処理を行う必要があることから営業職員には高い専門知識が必要とされる。しかし現実的には営業職員が即答できないものは営業所事務員に問い合わせ、さらには本社職員に問い合わせがエスカレーションされることが多数発生していた。そこで明治安田生命保険相互会社では 36,000 人の営業職員が顧客から受ける問い合わせへの対応をサポートする AI ナレッジシステムの構築に取り組むこととなった。

2020 年の第一段階では営業所事務員を支援する FAQ ナレッジマネジメントシステムとして「AI ナレッジ」を開発・導入し、コンテンツの充実と検索利用度の向上のためのチューニングを行い、定着化を図った。医療・保険用語の曖昧検索を可能にするなど利便性を高め、また FAQ 作成担当者のモチベーションを高めるための工夫も行なっている。

次に 2022 年に至る第二段階として営業職員を直接支援する「MY ナレッジ」の導入に展開していった。

MY ナレッジでは、IT リテラシーの低い高齢の営業職員にも利用できるようにスマホからの音声応答など各種の UI の工夫

を加えながら、さらに精度と利便性を高めていった。結果として AI ナレッジでは 10 万時間/年の業務量削減に成功し、今後は MY ナレッジの効果で 35 万時間/年の削減が予想されるという。本取り組みだけではないだろうが、近年は顧客満足度の継続的向上が記録されているとのことである。

ナレッジマネジメントシステムのテーマとして、大人数の対象者に着実に浸透させるために種々の手立てを積み重ねていくプロセスは、システム導入効果を最大限に実現するためのマネジメント努力であり、他社の参考になるものとする。よって IT 賞を授与するものである。

A3-2 : IT 賞（顧客・事業機能領域）

ダイキン工業株式会社

「エアコンのメーカーサービス！予測困難な年間業務の繁閑差を人の手を介さず、最高のサービス品質の提供を！」

サービス本部 コンタクトセンター 業務革新グループ 松葉 美咲

ダイキン工業のコンタクトセンターが電話・FAX・インターネットで受けるエアコンの修理依頼や問合せの件数は、年間数百万件に達する。繁閑の差は大きく、夏の猛暑期には入電が跳ね上がる一方で、春や秋はそうでもない。加えてコールの大半が人による対応が必要な電話や FAX だったため、対応は容易ではないという。入電のピークに備えて、毎年、新人コミュニケーターを大量採用するものの、それでも電話が繋がらない状況を解消できず、また教育工数の増大や品質の維持が大きな問題になっていた。

これを放置すれば顧客満足度の低下を招くだけでなく、猛暑が常態になった昨今、エアコンは使用者の健康状態や重要設備の維持管理を左右するなくてはならないものである。そこで同センターは人の手を介さないチャネルへと舵を切ることにした。具体的にはまず、AI チャットボットを活用して問い合わせに対応できるようにし、修理依頼をインターネットで受け付けられるようにした。各地の販売店から来る FAX 経由の問い合わせや連絡については、Web-EDI に置き換えて受付を自動化した。後工程である修理日程の調整についても、顧客や販売店が自身で完結できるようにサイトを構築した。

これらの施策により、人手を介さない問い合わせ応答や修理依頼の受付件数は大幅に向上。2022 年夏のピーク時には高い接続率と、顧客が電話で待つ必要がほぼないサービスレベルを実現した。新人のコミュニケーターの採用数も抑制し、運営コスト効率化に成功している。特に AI チャットボットは海外のセンターにも展開を始めており、今後更に拡大していく予定である。コンタクトセンターの業務改善・改革という観点では、チャットボットや Web-EDI を利用する程度で、それほど先進的とはいえない。しかしながら夏の繁忙期に高い接続率を達成したことや、顧客の評価は過去最高にまで向上していることなど、実現した成果は高く評価できるものであり、IT 賞に値する。

A3-3 : IT 賞（顧客・事業機能領域）

大同生命保険株式会社

「『つながる手続』の導入～保険手続のカスタマー・エクスペリエンスを変革～」

カスタマーサービスセンター サービス企画課 課長 村松 陽介

大同生命の契約の 98%は中小企業市場における契約であり、家計市場を主とする他の生命保険会社と大きく異なる。この市場の特徴は、保険を契約する人（契約者）と保険の対象となる人（被保険者）が異なることで、契約者は企業、被保険者はその企業の役員・従業員となる。

これまでは、大同生命の担当者が企業の各拠点を訪問し、対面で従業員一人ずつと加入手続きを行っていた。しかし、これには日程・時間の調整が必要で、拠点や従業員数の多い企業の場合は多大な労力を要し、また契約締結までに日数を要していた。さらに新型コロナウイルスの蔓延によって、対面を好まない顧客も増えたことが、「つながる手続」の開発につながった。

「つながる手続」は、対面の代わりに A I 顔認証技術を用いた本人認証システムを導入し、従業員は自らのスマートフォンで時間・場所を選ばず手続きができる。また、保険金・給付金の支払請求や解約請求もスマホから行うことができ、最短 5 分で支払いが可能である。これは、早急に資金を必要とする契約者と受取人に喜ばれている。

「つながる手続」は利便性、わかりやすさ、サポート体制が高く評価され、従業員の加入手続きにおける利用率は 2021 年度末時点で 42.1%となっている。また、コールセンターに電話をかけてきた契約者には URL を SMS で送って手続き用の画面に誘導するなどの工夫をしており、支払手続きにおける直近 9 月の利用率は 48%となっている。

また、法人の契約手続き（企業が大同生命と契約を締結すること）の完全リモート化を、当初の計画より前倒しで実現した。これは業界初である。

同社は中期経営計画で、「中小企業に信頼されるパートナーとなるために」を掲げており、契約部、保険金部、契約サービス部、カスタマーサービスセンター、システム企画部、そして T & D 情報システムが一体となり、デジタルの活用による「お客さまと“つながる力”の強化」に取り組んでいる。本取り組みはまさに IT を用いて同社の中期経営計画の具現化に寄与しており、IT 賞にふさわしいと考える。

A4-1 : IT 賞（顧客・事業機能領域）

株式会社ベネッセスタイルケア

「介護の匠『マジ神』のノウハウをシステム化、認知症ケアを支援する「マジ神 AI」の開発」

執行役員 サービス推進本部長 介護 DX 推進部長 祝田 健

介護 DX 推進部 副部長 宮下 ゆかり

株式会社ベネッセスタイルケアでは高齢者介護事業において介護記録のデータ化やセンサーによる自動記録を行うサービスナビゲーションシステムを導入し、数年間にわたって介護活動及び入居者態様のデータを蓄積してきた。そしてこれらの膨大なデータ蓄積を入居者個別の介護計画・実施・評価に活用するというネクストステップに進むために AI による BPSD（認知症の行動・心理症状）の要因解析と介護介入判断支援、さらにその結果を評価するダッシュボードを介護スタッフに対して提供できるようにした。

介護介入判断については「マジ神」と呼ばれるベテランスタッフの行動様式をノウハウに転換して、そこではベネッセグループの教育事業の基盤的コンピタンスである「教師データ」の手法が活かされている。

一般に介護事業では作業効率の観点からサービスやオペレーションを標準化もしくは統一化しようとするドライブがかかりがちである。しかし当社の取り組みは、事業理念である「その方らしさに、深く寄りそう。」をまさに実践するものであった。ダッシュボードによって入居者一人ひとりの固有の状態を見極め、症状の兆候段階から介護介入の判断を行いその活動の結果を直ちにフィードバックすると共にその後のケアプランに結びつけることが経験の浅いスタッフでも可能になっている。これにより入居者ごとに異なる症状の態様に対して個別のケアを行えるため、QOL 向上及び症状緩和の成果にも結びついていると思われる。その意味ではケアサービスの「機能向上」をもたらしているとも考えられる。

またこのダッシュボードは共有されているため、介護スタッフの孤立化を防ぐことができる。ケア活動の成果を具体的に表現することができるためモチベーション向上にも役立つものである。自然言語解析の技術によって自律的な組織知の増殖も可能になっている。

以上のことから本取組は認知症介護現場における関係者全てに対して恩恵をもたらすものであり、IT 賞授賞に値するものと判断した。近い将来、定量的判断が可能なレベルでサービスの機能向上の成果が検証される日を期待するものである。

A4-2 : T 賞 (顧客・事業機能領域)

三井不動産株式会社

「ららぽーと福岡における、デジタルを活用したサービス革新の取り組み～次世代型商業施設の実現を目指して～」

DX 本部 DX 二部 DX グループ グループ長 寺田 和仁

コロナ禍で一時客足が激減した大規模商業施設が最近復活の兆しを見せつつあり、新たな施設の建設も進んでいる。大規模商業施設には、顧客は主として車で訪れ、何百とある店舗で買い物をし、食事をし、アミューズメント施設で楽しむなどをしてから帰路につく。

その際、入庫時の駐車券の受け取り、店舗での支払い、ポイントの獲得、割引キャンペーンの利用、駐車サービス券の受け取り、駐車料金の精算など様々なイベントが発生するが、それらは必ずしもシームレスに行われているとは言い難い。また、これらの業務処理は店舗で働くスタッフにとっても負担となっている。

さらに、コロナ禍の影響で急増したオンライン販売と、リアル店舗での販売をどう融合させるかも課題である。

このような背景から、三井不動産は各商業施設でリアル施設とデジタル技術を融合させ、新たな価値を提供する施策を実施してきたが、2022年4月開業の「三井ショッピングパーク ららぽーと福岡」において複数の施策を組み合わせ提供した。

顧客はスマホ1つでキャッシュレス決済・ポイント付与、フードコートでの注文・決済などをシームレスに行うことができる。また、駐車場もチケットレス化し、車のナンバーと購買情報を連携して自動精算するサービスも提供予定である。

さらに、開業直後の近隣道路、施設駐車場の渋滞緩和のため、三井不動産グループが提供する不動産 MaaS サービス「& MOVE」で、最寄り駅からららぽーと福岡までのバス乗車券を無償配布。2022年4月25日の施設オープンから同年のGW期間にかけて、1万を超える乗車券を提供し、同施策での来館者のうち約3割のユーザーを自家用車での来訪予定からバス利用に誘導した。

「テナントとの共創」という観点では、200以上あるテナントの生産性向上を企図し、スタッフ専用サポートアプリ「Staff Circle」を導入。スタッフへの情報連携や入退館管理などの各種手続きをデジタル化し、業務コストの削減や店舗運営の効率化に貢献。

また、RFID タグを活用し、三井ショッピングパークの EC サイト「& mall」と店舗在庫を連動させ、オムニチャネルでの商品販売も行っている。

様々な顧客行動が絡み合う大規模商業施設において、顧客の体験をシームレスにつなぐことにより快適性を向上させ、またオムニチャネル化と従業員の生産性向上によってテナントとの共創を図り、さらに MaaS を用いた周辺道路の渋滞緩和と、非常に多面的な方向から IT を駆使している三井不動産の取り組みは他の大規模商業施設の参考となるものであり、IT 賞に値すると思う。

A4-3 : IT 賞 (社会課題解決領域)

株式会社アイテム

「スマホによるスケジュール型高齢者見まもりアプリ『ピースサイン』」

代表取締役最高デジタル責任者 安川 正勝

2025年に高齢化率(総人口に占める65歳以上人口の割合)が30%に達する日本。単身世帯が増えることも間違いなく、様々な面でこれまでとは違った施策が必要になることは論を要しない。身近なことで言えば、離れて暮らす高齢の両親などをどう見守るか、孤独死などを避けるべく高齢者が賃貸住宅を借りにくい問題をどう解消するかといった課題は、大きな社会問題とは認識されていない。しかし実際には喫緊の課題である。そのため、すでに電気製品や電気の使用量などから状況を推察する、居室にTVカメラを設置して監視するといった策が講じられているが、見守る側には良くて高齢者からみるとプライバシー侵害に繋がりがかねないなどの問題がある。

この状況に対し、アイテムはスマートフォン・アプリ「スケジュール型 高齢者見まもりアプリ ピースサイン」を開発した。仕組みは非常にシンプルで、毎日、定時に高齢者のスマホに連絡し、2 択で状況の良否を回答してもらうというもの。3 回連絡しても回答がない場合に、見守る人に通知する。高齢者はスマホのボタンをクリックするだけなので、見られているという負の心理やテキスト文を入力するような複雑な操作をする必要がないのが利点である。

アイテムはこのアプリを、①離れて暮らす高齢者を見守る若い家族向け、②賃貸住宅業界の入居者向けオプション、の 2 パターンで提供している。②では、賃貸住宅の運営会社は万一の時も早期に発見できるため、孤独死のリスクを極小にできる。なお利用料は①が月額 500 円、②は運営会社に対し管理画面利用料と入居者 1 人あたりの費用を①の利用料金以下で提供（契約者数によって異なる）。今日、スマホは大半の高齢者が所持しており、新たな設備投資が不要なことを考慮すればリーズナブルと言える。それだけでなく、高齢者が良否を回答した回数を 1 ポイント 1 円として総額を子ども食堂運営支援団体に寄付する、社会貢献の仕組みも取り入れている。以上の簡便さやリーズナブルさ、社会貢献の仕組みは IT 賞に値すると評価する。

A5-1 : IT 賞（社会課題解決領域）

ニッセイ情報テクノロジー株式会社

「持続可能な医療保険制度に向けたジェネリック医薬品促進事業の支援による医療費適正化への取組み」

ヘルスケア事業本部

ヘルスケアコンサルティング営業部 営業部長 柿本 篤史

医療保険制度の維持持続のためには医療費の抑制が必須であり、ジェネリック医薬品（後発品）の使用拡大は最も効果的な対策と考えられてきた。しかし、医療保険加入者、医師、薬剤師などの当事者からは取って代わって後発品に切り替えることのメリット感が薄く、漠然とした不安やリスク意識が障害となって遅々として進まなかった。そんな状況下、日本最大の医療保険者である協会けんぽは加入者への差額通知をはじめとする後発品普及への広報施策を積極的に推進し、保険者別でも一歩先をいく後発品使用率を達成しこれを牽引してきた。ニッセイ情報テクノロジー株式会社はこの施策推進のパートナーとして施策の企画提案と実施を担ってきた。その特長は、IT、データサイエンス、レセプトデータの活用によって事実に基づく関係者への訴求を徹底したことである。

患者（加入者）に対する使用医薬品の差額通知書では、後発品へ切り替えることによる差額金額の単純な表示だけでなく、患者にとっての具体的なメリットを説明するなど提供情報の充実を図るようにした。後発品の安全性や安定供給についても独自のデータ解析に基づき安定供給医薬品を推奨するなどしている。

様々なデータ解析によって、地域別や医療機関別、薬剤別などの比較分析を通じてどうすれば後発品の処方が増えるかを解析し、協会けんぽ支部別の取り組みや医療機関、都道府県等の地域関係者への情報提供が行われ、対外的にもその取り組みが高く評価されている。

結果として、2013 年度から約 10 年にわたる継続的な取り組みにより、直近では年間 400 億円を超える医療費削減効果を実現した。そのカギとなったのは広報として提供する情報コンテンツが科学的かつ論理的で優秀であったからと考えられる。レセプトデータそのものは医療費への保険給付支払いのための形式的情報であり、基礎的保険者機能を担うものである。このデータに対し特許技術を使って解析可能な状態に正規化し、解析することで実現したのである。

さらに、長年にわたって顧客に対して新しい提案を繰り返し、連続した支援活動を行なった実績は、受託成果を出し続け顧客からの信頼を獲得している証左であり、業界地位向上にも資する。よって IT 賞授賞に相応しいものと認め、ここに賞する。

A5-2 : IT 賞 (社会課題解決領域)

三井住友海上火災保険株式会社 / MS & A D インターリスク総研株式会社

「防災ダッシュボード～気象・災害データ×AI による防災減災支援サービス～」

三井住友海上火災保険株式会社 ビジネスイノベーション部 課長 岡崎 紘治

自然災害が多発して、迅速な避難や減災のために災害の予測は大きな課題である。損保会社は自然災害による損害の算定にかかわってきた長い体験から、災害に関する豊富なデータや災害予防に関する知識が蓄積している。さらに気象の予報技術は衛星からの観測データや AI を利用した解析技術の進展で災害予測の精度を上げられるはずだ。さらに、災害予防情報を使いやすいように工夫し、画面にいろいろな有用情報を同時に表示できるダッシュボード形式にまとめたのがこの防災減災支援サービスである。行政の災害時の対応策に大きく貢献する。

このシステムのメリットは①災害時にいろいろな気象情報サイトを見にくく不便を解消し、ダッシュボード画面上に気象・災害データを集約、自由に重ね合わせられるマッピング機能を使ってリアルタイム情報を一元化できる、②過去災害時の気象・河川水位・人流・SNS・事故データなどを組み合わせ、避難指示や災害復旧時の動きの振り返りができる、③東京大学・JAXA の「Today's Earth」研究グループとの産学連携により、30 時間以上先の水害予測の可視化を実現した、④地震発災約 1 時間後、洪水は発災約 1 ～ 3 日後に被害規模や被害範囲の推定をダッシュボード上に自動的に可視化し、災害発生後の的確な初動対応や復旧活動を支援するという点。

IT を活用し、多発化する自然災害に対し、防災減災を目指す行政の活動を支援できるシステムとして高く評価し、IT 賞に相当すると認めた。

A5-3:IT 優秀賞 (トランスフォーメーション領域)

横河電機株式会社

「グローバル自社工場におけるデータ駆動型オペレーションを実現する Digital Factory の取組」

デジタル戦略本部 DX 推進部 デジタルファクトリー課 課長 藤原 秀樹

製造業における OT 領域の DX 化が加速する中、自社工場の OT 領域データと IT 領域データを組合わせたデータ駆動型オペレーションをグローバルに展開している。当社では、OT Data Lake の構築、IT/OT データや画像に対する AI アルゴリズムの適用、リモートオペレーションの実現の 3 つを Digital Factory と呼ぶ。DX の目的として挙げているのは、①グローバル自社工場のオペレーションの最適化で、工場、生産ラインの全体最適を実現すること、②自社工場で得られた知識や経験を顧客に提供すること、この 2 つである。この目標を実現するために、基幹業務データ、現場の生産状況や設備のデータ、IoT 関連のストリーミングデータなど、多種多様なデジタルデータをクラウド上のデータレイクに保存する。それらのデータは、データウェアハウスを経由して BI ツールで分析される。そうした、一貫したデータフローと分析の仕組みを作り出し、グローバル 10 工場とデータ連携を開始している。DX の成果は生産現場の業務改善だけにとどまらない。生産現場が成功体験を通じて、自ら進んでデータ駆動型オペレーションを実践しようとする意識変革が起き、さらに現場の成功体験を積極的に他工程や他工場などに横展開しようとする機運が生まれるなど、DX の成果は組織変革にまでおよんでいる。こうした当社の取り組みは、1 企業の成功事例として、日本の製造業の DX の最新事例として高く評価でき、他企業や他業種への波及効果もまた大きい。

A6-1 : IT 賞 (トランスフォーメーション領域)

イーデザイン損害保険株式会社

「データドリブン経営を推進する CoE の新設 ～お客さまとの共創を目指して～」

ビジネスアナリティクス部 次長 木村 允禎

東京海上グループのダイレクト損保である同社は、第一弾として業界初のデジタル完結型自動車保険「&e (アンディー)」を発売するなど、様々なトランスフォーメーションに取り組んでいる。そのためには全社的なデータドリブン経営の推進が不可欠と考え、2021年4月にCoE (Center of Excellence) としてビジネスアナリティクス部を新設した。

この組織は、外部から集めた専門家に頼る手法は取らず、社内公募を活用しながら、社員を軸とした組織作りや人材育成などの態勢整備を進めてきた点が他に例を見ないアプローチとなっている。

その結果、設立1年で複数のAIモデルを開発から実装まで内製で実現、そのひとつである「私のタントウシャ」モデルは日本初のお客さま向けサービスとして「Insurance Asia Awards 2022」を受賞するなど外部からも高い評価を得ている。

さらに、全社的なKPIダッシュボードを構築・整備すると共に、社内各部署におけるBIツール活用を推進することで新商品「&e (アンディー)」のお客さま体験を向上させるなど、全社のデータドリブンをリードしている。

企業のDXを推進するために、外部人材に頼らずに社内メンバーを軸に築き上げた組織が、わずか1年間で具体的な成果を挙げた同社の取り組みは、まさにデータドリブンに取り組む企業の範となるものであり、IT賞 (トランスフォーメーション領域) にふさわしいと考える。

A6-2 : IT 賞 (トランスフォーメーション領域)

株式会社ベネッセホールディングス

「ベネッセグループのIT・DX部門の全社統合による事業推進体制の構築」

DXコンサルティング部 部長 中学生マキ・営業部 広報部 広報課 水上 宙士

ベネッセグループではそれまでの事業部門別のDX推進を廃し、グループ全体でのDX推進体制に転換した。生活者の世代別の教育にかかわる多種多様なビジネスモデルが存在し、かつDX推進のステージが異なっている中で、組織全体としてのDX推進能力の向上が必要とされたからである。

事業フェーズに合わせたDX推進としては従来の①業務/サービスのデジタル化に加え、②オフライン×オンラインサービスの統合、③ビジネスモデルの転換を推進課題とした。顧客本位の目線から人的サービスとオンラインサービスを統合し高度化することは教育産業の事業力強化の要である。さらにデジタルベースの全く新しいビジネスモデルがディストラクターとして参入してくることが予想されている中で、新規参入者をウオッチして、出資や協業によって積極的に取り込んでいくことで自らのビジネスモデルの転換を図っていくという戦略はベネッセグループの事業体質には良く適合するものと思われる。

また、このような戦略的なDXを推進する上でもう一つの柱としてDX人材の開発・育成を組織横断的に取り組んだ。

DX人材の職種別スキルを定義し (上記の新ビジネスモデルの一つでもある) Udemy サービスを通じて外販可能なレベルで研修体系を整備した。社員のリスキリングを意識した基礎研修及びDX職種育成研修まで横断的に研修を実施し、アセスメントをおこなっている。

教育産業ならではの要因もあるが、事業そのもののDX転換と横断的なDX人材の育成を軸とした取り組みはDXの本質をついたものであり、大いにベンチマークとされるべきである。よってIT賞に値するものと評価した。

A6-3 : IT 賞 (トランスフォーメーション領域)

三菱商事株式会社

「コーポレート DX の取組み～為替取引業務における業務効率化/為替コスト削減の実現～」

執行役員 財務部長 大河原 誠

三菱商事の為替取引業務では、①オフィスで専用ディーリングフォンを利用しないと遂行できない就労環境が、有事の際のBCP体制に影響するとコロナ禍で浮き彫りになったこと②業務の属人化③グループ会社各社で為替執行業務が行われるようになり、同社グループ内の同業務の負荷が大きくなっていることなどの課題を受けて、トレジャリー分野のデジタル化を進めた。具体的には為替執行業務の電子執行による自動化や効率化、並びに銀行取引専用ディーリングフォンのソフトウェア化（在宅ディーリングフォン）を進めた。これらにより同社は為替執行業務の「属人化業務の解消」「待機時間を含めた業務量削減（80%削減）」「マニュアル業務の削減（ドル取引約30%削減）」「取引コスト改善（20%削減）」を実現したことに加え、オフィス依存度低減による働き方改革を実現。この結果、より高付加価値な業務やスケラブルな業務遂行が可能となり、グループ会社を対象とした為替取引プラットフォームを軸としたグループ企業全体の価値向上に繋がるサービスの新規開発・運営を行っている。

本件には、オペレーション側とシステム側のそれぞれの専門家が、検討段階からフラットに組織され、試行錯誤しながら高速でシステム開発を進める体制を採用、個々のトライアンドエラーをプロセスに取り組み、継続的進化のスクラム型で推進した。トレジャリー業務はサービスの提供であって、システム開発が主役ではないことを明確にするため、ユーザーに主導権を持たせる運営とするべくユーザー部門にアーキテクチャー研修を含む本格的なIT研修を実施。これにより、個々の組織のオーナーシップが発揮されるようになり、ベンダーやシステム部門への丸投げ依存ではなく、自律改善型組織への進化が図られたことも大きな成果である。

環境が激しく変化する状況下では、システムの入替りに複数年をかける対応では変化に適合できない時代において、トレジャリー業務のデジタル化への取組みを評価するとともに、たゆまぬ改善を継続的にするための自律改善型組織に転化した点を評価し、IT賞とする。

A7-1 : IT 優秀賞 (ニューノーマルへの対応領域)

文部科学省/エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社

「クラウドをフル活用した OA 環境刷新により 働き方改革を推進」

文部科学省 大臣官房政策課 サイバーセキュリティ・情報化推進室 室長 坂本 秀敬

エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社 ネットワーククラウド事業本部

サービスプロバイダ部 MSP-BU 担当課長 岡本 稔

ITを駆使して働き方改革を推進と言えば、民間企業では先進例が多数出てきているが、行政機関は著しく後れている。議会との関係もあり、残業が当たり前、業務執行の仕組みは旧態依然として能率が悪く、働く側からは「ブラック企業」として嫌われ始めて久しい。優秀な若者の公務員志望が激減し、過酷な労働環境を嫌った途中退職者も増え、このままでは「行政の危機」となりかねない。こういう危機意識からITをベースに業務執行の仕組みを変え、文部科学省の行政職員が新しい働き方を実現できる仕組みを構築した。

具体的な内容は①全省無線化により自席に捉われない自由な業務環境を実現し、3700人の職員全員がリモートワークで業務を執行できる、②WEB会議や情報共有型のシステムの利用で省内・省外とのメール往復による非効率なコミュニケーションをなくし業務を刷新した、③主要業務機能を全てクラウドで行い、災害時でも端末とインターネット接続さえできれば業務が継続できるうえ、クラウドストレージでのマルウェアチェック、AIによるログ分析で未知のサイバー攻撃にも対応できるセキュリティ体制——という業務環境の根本的な改革である。

複数のクラウドを結合する難しい作業だったが、文科省はエヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社と協力、約 9 カ月の短期間でシステムを完成した。

後れていた行政組織がデジタル改革によって新しい働き方の環境を整えて「ブラック企業」のイメージを払拭し、優秀な人材を呼び寄せる魅力的なニューノーマルへの道を切り開いたことは、他の中央官庁や地方自治体にもモデルとなるものであり、IT 優秀賞に値する成果と認める。

A7-2 : IT 賞 (サステナビリティ領域)

楽天グループ株式会社

「カーボンニュートラルを目指す 先進ロジスティクスシステム開発」

楽天技術研究所 カスタマー-Geo サイエンスグループ Research Scientist 増谷 修

楽天グループはカーボンフットプリント削減のための取り組みとしてグループが関係するロジスティクスの領域で co2 排出量削減を行なった。

具体的には、AI 配車管理システムを構築・導入し配車配送管理を内製化することによって配車及び配送ルートを最適化し、走行距離を削減することで排出 co2 を削減したのである。走行距離の削減効果は 15% (年間 86 万 km 相当)、co2 削減量は 170t/年とされ、今後も効果の拡大が見込まれている。

技術的な特長は AI で機械学習・自動計算としながらも膨大な計算負荷がかかることから、第一段階でクラスター分別を行い、次の段階でクラスターごとに最適解を求める手法を採用したことである。これによって詳細な条件を与えても短時間に解を得られるようになり、日々の配送手配に実用的に活用できるようになった。

また推進体制における特長として、サービス構築部門、ロジスティクス部門、データサイエンス部門そして技術研究所の 4 者がプロジェクトに集まって、ロジスティクス分野での AI 技術の導入という未経験領域でのシステム開発を実現したことがあげられる。

産業的に川下となるロジスティクス分野は最も受け身のポジションにあることから改革が遅れがちになるものであるが、先駆けてカーボンニュートラルに向けた方法論と実績を示した功績は評価に値する。よって IT 賞を授与するものである。

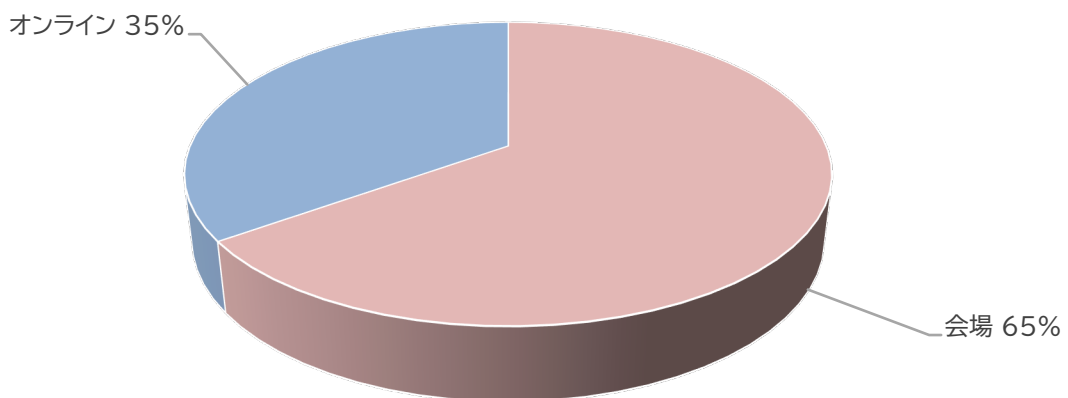
V. アンケート集計結果

1. 来場者数

2日間、延べ1,699名

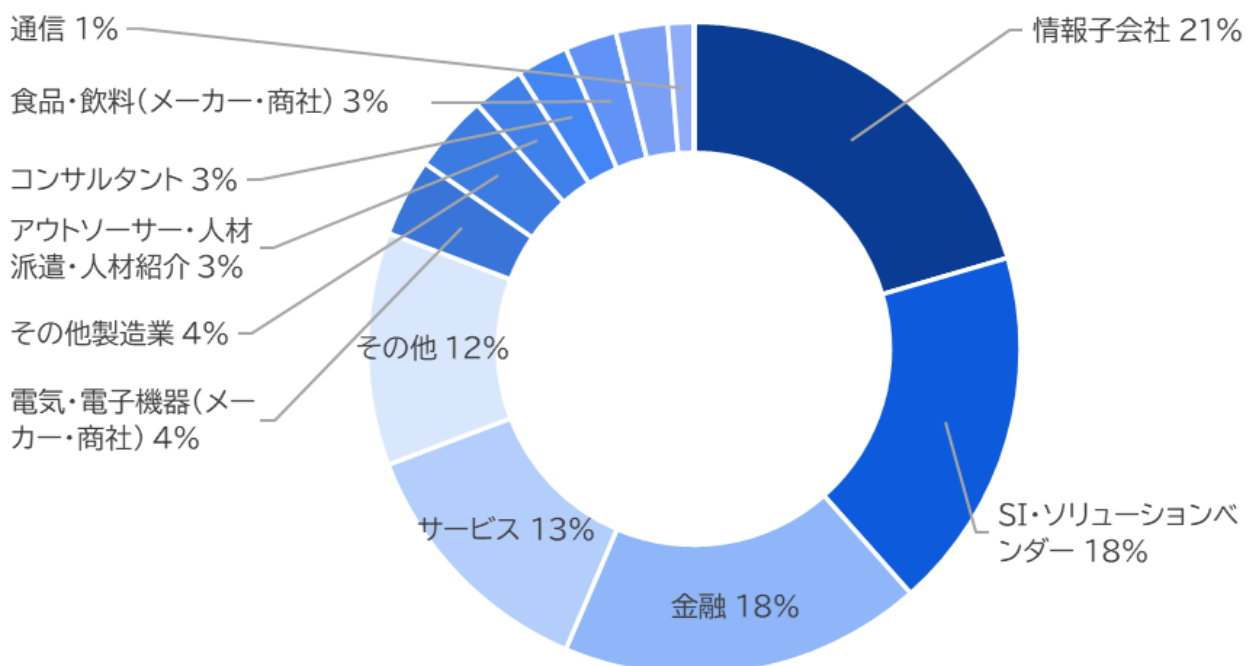
2. 有料セッションアンケート集計結果（アンケート回収数：59）

2-1. ご参加方法について

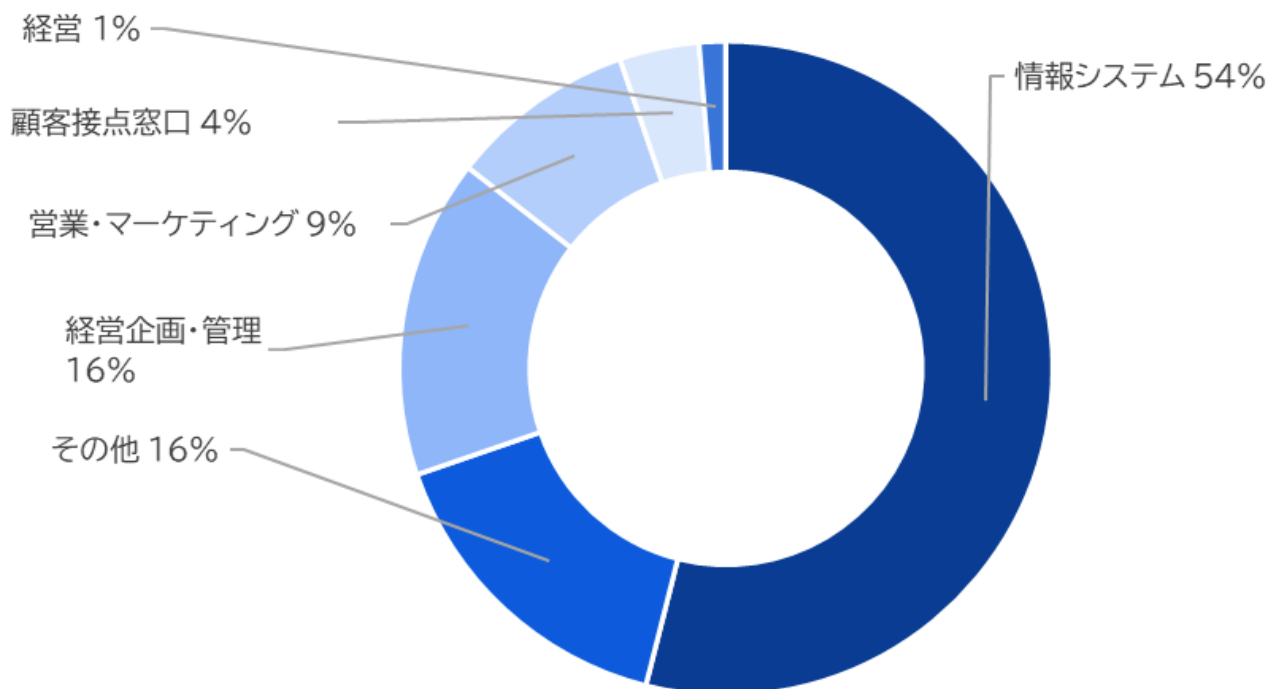


2-2. ご参加者属性

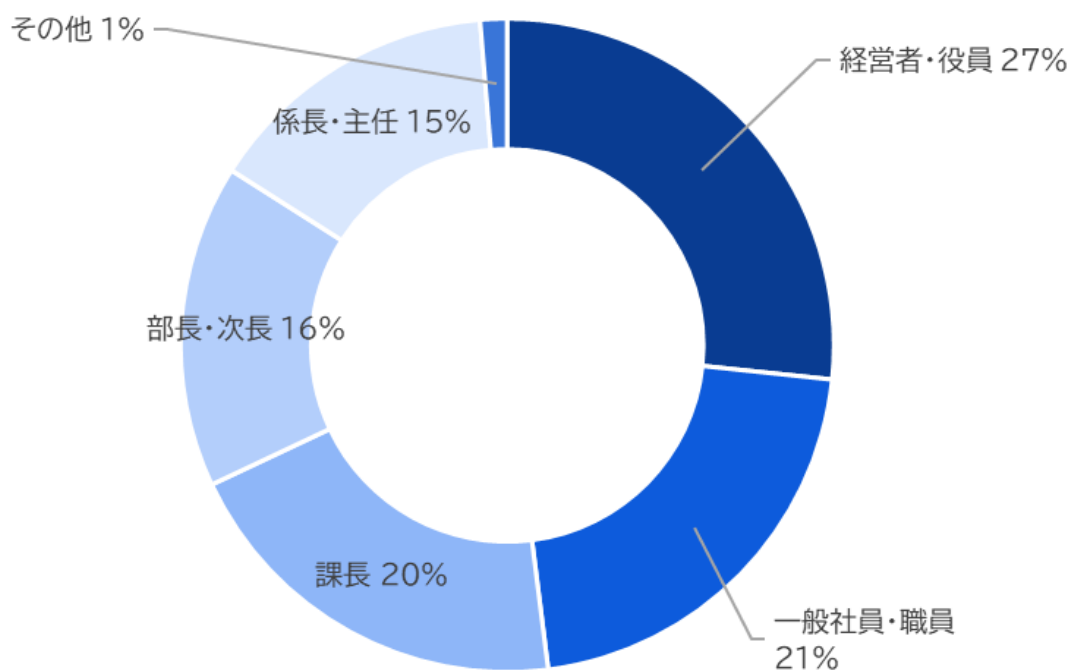
2-2-1：ご参加者属性 | 業種



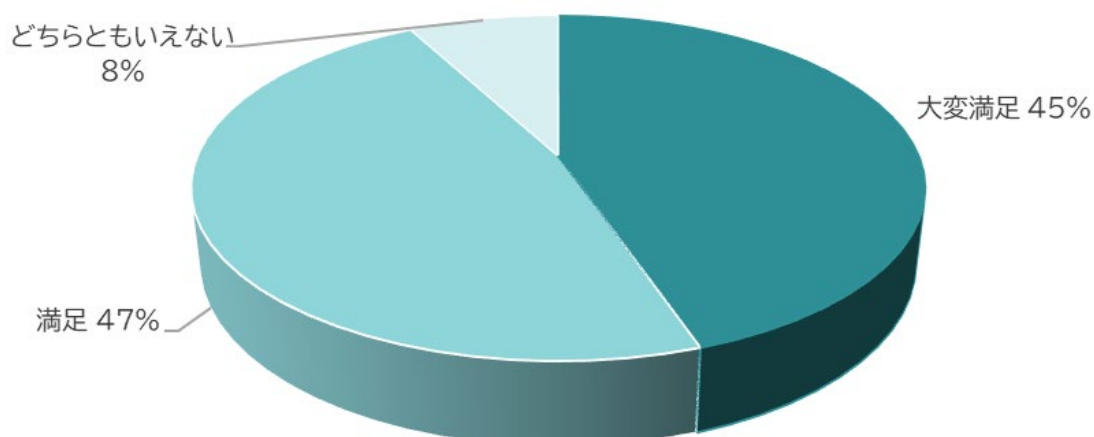
2-2-2 : ご参加者属性 | 職種



2-2-3 : ご参加者属性 | 役職



2-3. 本大会の総合的なご評価をお聞かせください



大変満足

この度は総合大会に参加させて頂きありがとうございました。基調講演大変勉強になりました。メンバーも先進的に取組まれている企業様・団体のお話を伺いとても刺激を受けており、更に理解者を社内で増やし推進していきたいとパワーを頂きました。

各企業の取組事例に刺激を受けました。

基調講演が特に講演者のご経験に基づいた説得力のある内容で勉強になりました

業界横断で先進的な取り組みを知る大変貴重なきっかけであることから。

経営の視点から IT/デジタルをとらえて企業全体の成長につながる企画となっていること

経営視点でのお話しを聞くことができたのがとても有益でした。

講演テーマ、演者ともに素晴らしい

高度なレベルで大変勉強になりました。

高度な取組みが多々あり大変勉強になりました。

自社で課題と感じた部分の解決例を知れた

他社の取り組みを知ることができ、大変勉強になった

同じテーマで様々な業態の方のお話しを伺えたことが有益だった。

内容が具体的であり、解決に直結している点

内容が広い

表彰いただいた企業側であったため。他社取り組みを窺うことができたため。

満足

どのプレゼンも十分な準備をされ興味を引くものであった。

会場の素晴らしさ、参加者数の多さ

概ね分かり易い説明であった

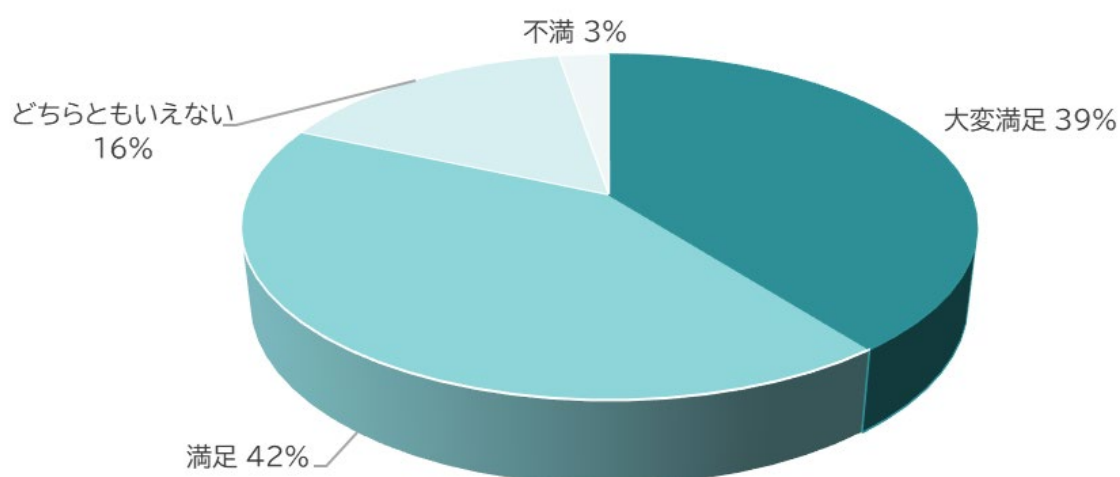
各社の IT 戦略と取り組みを伺う事ができたからです。

各社の具体的な取り組みを知ることができてよかった。

各社の先進的なお取り組みについて、オンラインでくまなく話を聞きました。1社あたりの時間をもう少し長くして、アーカイブ配信があればベストです。
具体的な話が多く、参考になりました
最先端の IT
参考になる内容が多かった
事例に触れること
時間が丁度良い
自社の課題感をしっかりとイメージできたため。
受賞企業の発表のバランスが良い
心打たれる内容であった
世の中の先進事例に触れることができるため
全体の発表が一日で聞ける。
他社の具体的な DX 化課題を聞けるので面白いし、勉強になる
他社事例から学びを得て、自社の取組みに活かすことが出来るため。
多くの事例を聴くことができた。
様々な業態の IT 戦略について考え方を学ぶことが出来たからです。

どちらとも言えない
受賞数が多く企業にとっては励みなる。
様々な企業の取り組みが聞けたことが良かったと思います。
実業務としての苦労した点や進めるポイントも詳しく知りたい
トレンドに沿っているためからなのか、話題に偏りがあったように思います。

2-4. プログラムの構成（時間配分等）についてのご感想をお聞かせください



大変満足

1つ1つの講演にたっぷり時間が配分されており、咀嚼しながら聞くことができました。

1時間以内の公演は時間配分としてちょうどよいです。

ありがとうございました

講演と休憩の時間配分に違和感なく参加しやすかったです。

長すぎず、短すぎず、集中して聞ける良い時間配分だった

内容が充実している点。

発表時間と休憩時間に違和感なくスムーズに参加出来ました。

満足

15分では短すぎる場合があります。あと5分長くしてもらえると良いです。

40～50分程度の集中できる時間配分がよい

各発表の時間が適切であったと思う。

休憩が適切である。

丁度よい長さだと感じる

丁度良いと思います。

どちらともいえない

セッション毎に小休憩があるのは疲れにくくよかったと思います。

もう少し短いほうがよい

休憩時間がもう少しあった方がよいと想いました。

多くの講演を聴講が可能

短時間に盛沢山すぎて、消化不良の部分も多かった。

不満

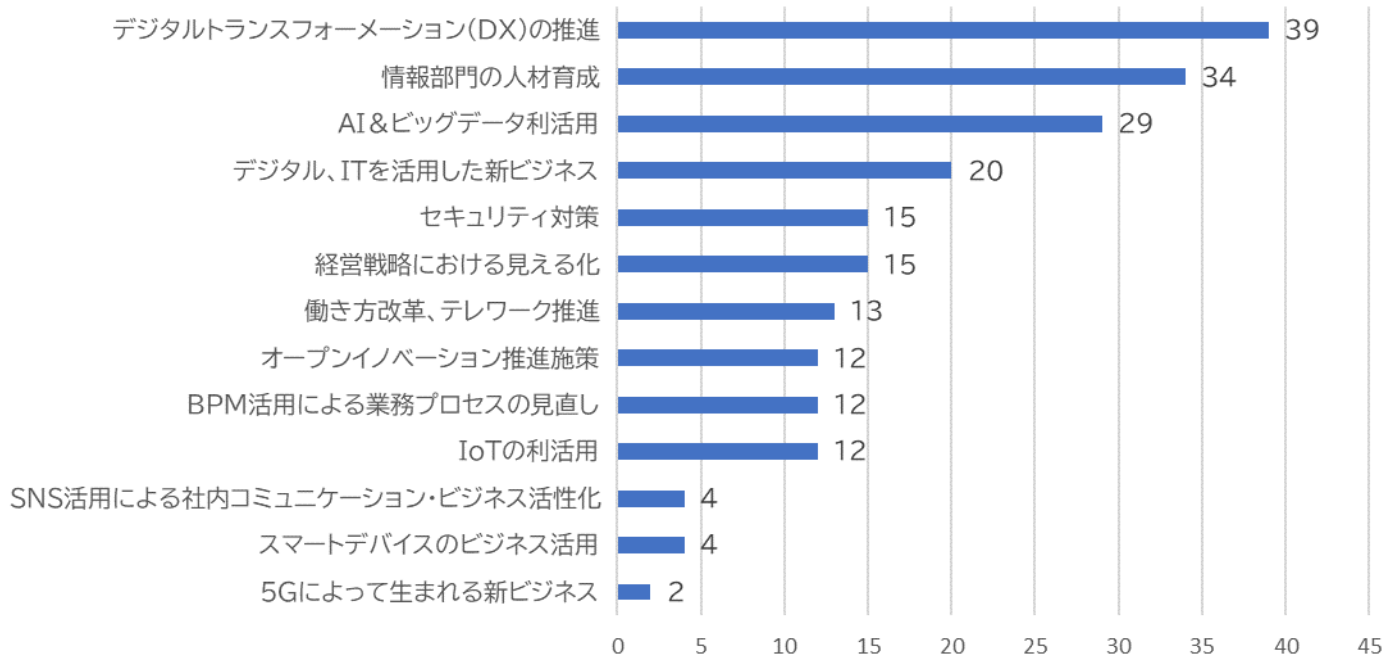
各社の発表の時間が短いと感じました。

もう少し詳細な内容を聞くにはもの足りない。

手ごろな昼食が取れる飲食店が周辺にないにも関わらず、昼食時間が短くなったのは不満に思います

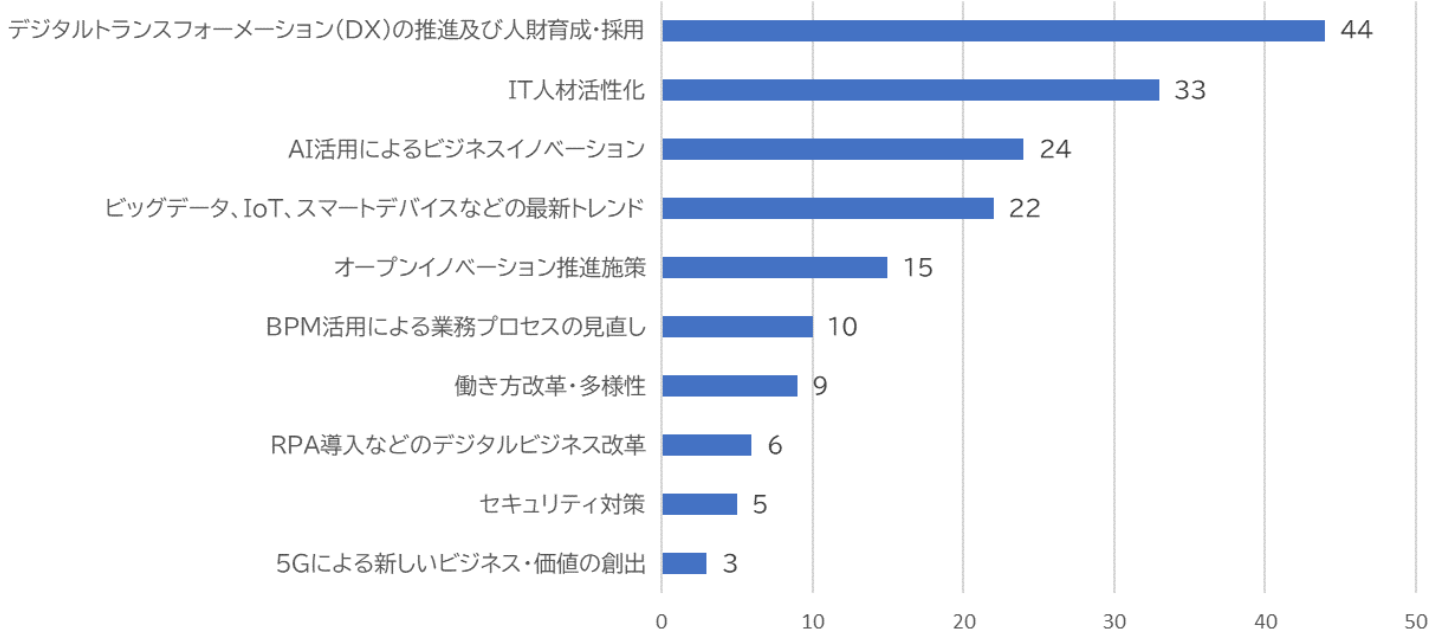
2-5. 現在貴社にとって解決すべき課題と思われるものは何ですか

複数回答有

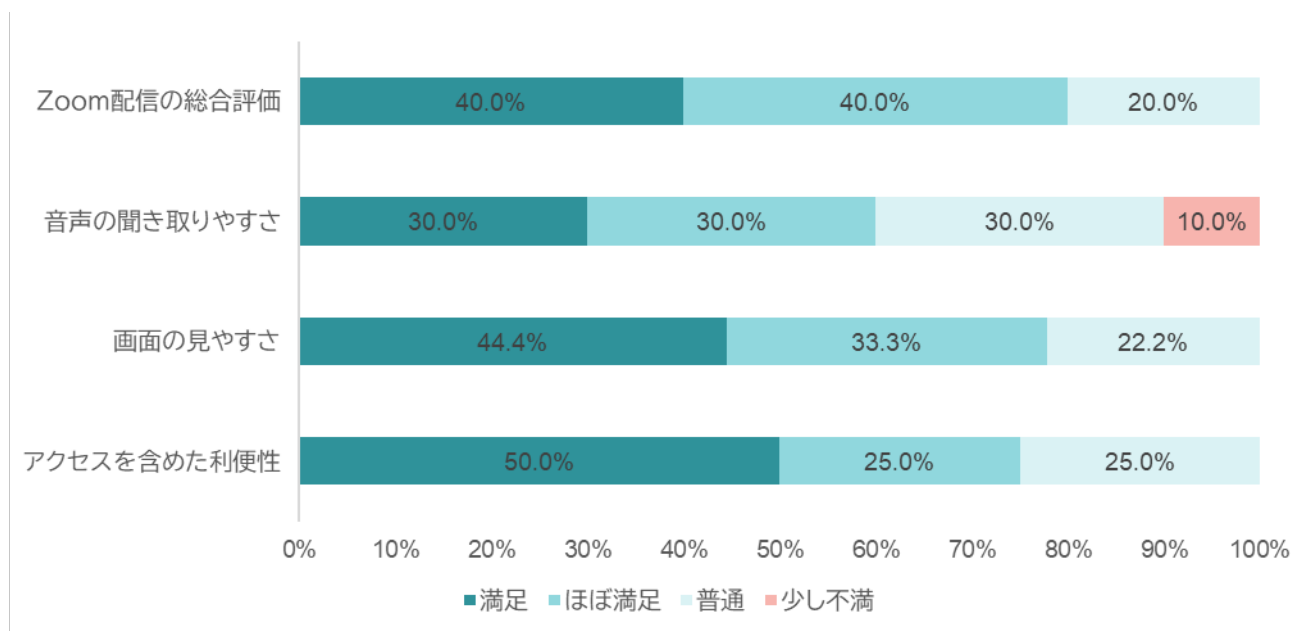


2-6. 小会の活動に期待しているものテーマをお聞かせください

複数回答有



2-7. <Zoom 参加者> Zoom ウェビナーのご感想をお聞かせください



コメント

ネットワークの関係か、時折音飛びなど聞きづらいときがありましたが、全体としては見やすく悪くありませんでした。

発表の間の途中で進行の方の声が入っていました。

2-8. 各セッションのご感想などをお聞かせください

【基調講演】ヤマトホールディングス 山内氏
ヤマト HD さんが DX を活用して成長した企業だということを改めて感じました。
現場力の向上により成功につながったのと感じました。
今のサービスが当たり前ようになっており、昔は今のサービスがなく改革されてきたことを改めて認識いたしました。
産業界を牽引されている山内様のお話大変勉強になりました。貴重なお話をありがとうございました。お考えや社外のパートナーの方々と連携し取組まれている事例が特に印象に残っております。
ロジスティクスの DX についてのスタンダード、長年の経験について惜しみなくお話しいただきありがとうございました。
市場を作ることの重要性がわかった
小集団による全員経営の話は参考になった
送り手だけでなく受け取り側の利便性に戦略軸をシフトした発想が素晴らしく、SD の声をちゃんと拾い上げて形に繋げる仕組みやカルチャーが素晴らしい

【基調講演】SOMPO ホールディングス 櫻田氏
改革の変遷がよくわかり経営側の考えがよくわかりました。
産業界を牽引されている櫻田様のお話大変勉強になりました。貴重なお話をありがとうございました。ビジョンを掲げ、ご自身の発信力と実行力で推進されているお話が特に印象に残っております。
将来を語る力を持つ事が大切だと思いました。
技術で人々を幸せにすることが再認識できた
自分のパーパスと会社のパーパスが重なるか、まったく重ならなければ会社を辞めたほうが良いという話しは参考になった

【特別講演】いとう まい子氏
いくつになっても、やる気があれば学べるのだと改めて確認できました。
モチベーションに頼らずに日常に組み込み、仕組みにされているお話を聞き、仕事も自身も参考にさせて頂き取組んでいきたいと感じました。
新しいことへの挑戦姿勢に感動しました。
前向きに進んでいくことで道がどんどん開けていくところに共感が持てました。とても参考になりました。
昼食中で聴講できませんでした。
モチベーションをいかに持たせるかと考えてきたが、モチベーションにたよらないというのは自分ではそうしたいと感じた
学ぶことの重要性を改めて考えさせられた
感動しました！！
講演の中で一番身近な内容だったので勉強になりました
自分の限界を作らない、諦めない姿勢を教わりました。応援したいです

【受賞記念講演】日本生命保険相互会社／ニッセイ情報テクノロジー株式会社

IT 人材の育成に向けたお話がとても勉強になりました。また限られたメンバー以外にも IT について学んでいく必要があると実感しております。今後も全社をあげて取組まれている企業様の取組みを参考にさせて頂き、弊社も進めて参ります。

グループ企業と一体となった取り組みであり人材にフォーカスされた施策で参考になります。

先進的な人作りの取組みが非常に参考になりました。

弊社に IT 人材育成の課題があり、とても参考になりました。

正面から給与で勝負せず、やりがいで、というのは誤っていると思う。きちんと成果を評価し、成果を出した人材には報酬でも応えていかないと、育成した優秀な人材はつなぎ留められない。Tresure Square の設立は素晴らしい取り組みである

素晴らしいプレゼンだったと思う。DX への取り組みの意気込みがすごく伝わってきた

【受賞記念講演】株式会社トリドールホールディングス

フルクラウドは難しいと思いますが、実現できるのだと分かりました。

日本の外食産業の質の高さを体現され国内外で展開されているお話を聞かせて頂きとても勉強になりました。人に優しい職場を弊社も目指して参ります。

方針を定め、ブレないで推進する実務者と、それを理解して経営陣の覚悟が素晴らしい。

一番良かったです。とても参考になりました

各システム全体を見て DX に取り組み、初期構築費用が高くなるランニングコストに置き換えて、関係部署には念入りに説明した点をさらに聞きたくなる内容であった

全面的なシステム構築であり、整合性がとれている

多方面の DX 化と具体的な事例がおもしろかったです。

自分がいま「プレーヤー」として仕事をしているため、企業経営だけでなく少し技術寄りの話がとても勉強になりました。（あと、数値で話されていたのが非常に分かり易かったです）

【A1-1】アセットマネジメント One 株式会社

障害時のリカバリ方法の検討。

障害時の権限移譲や割り切り事項を決めておくことは参考になった。

障害対応について多角的に捉えることができた。

Fit to Standard が印象に残りました

障害対応への取組が参考になりました。

【A1-2】オリックス生命保険株式会社

ルールにこだわり通した取り組みが素晴らしいと思いました。

【A1-3】アフラック生命保険株式会社

これだけ短期間で機械学習を行い実用出来るのは驚きました。

もっと詳細を知りたい。

【A2-1】コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社

障害時のリカバリ方法の検討。

【A2-2】西日本旅客鉄道株式会社/株式会社 JR 西日本 IT ソリューションズ

現状のシステム状況の説明にイラストなどを活用して、説明・説得されていた点など、とても参考になりました。

【A2-3】東日本旅客鉄道株式会社

日常の膨大は状況把握を一目でわかるシステムがすごいと感じました。

【A3-1】明治安田生命保険相互会社

ソリューションそのものは大規模なものではないが丁寧に問題解決を進め、非常に大きな効果を出されていて素晴らしいと思いました。

【A3-2】ダイキン工業株式会社

自社でもオンコール対応があり、同様の問題をかかえていた。DX の力で解決した手法に関心した。

ユーザーにとってわかりやすい WEB ページの開発のイメージが分かりやすかったです。

【A3-3】大同生命保険株式会社

中・長期的な視点になったお客様との関係構築は参考になります。

【A4-1】株式会社ベネッセスタイルケア

見守り、リスク管理の観点から一歩踏み出し、対象者の生きる喜びにフォーカスされているのが関心いたしました。

詳細まで理解はできていませんが、優れた経験、知識を有した、優秀な従業員のプロの技をうまくシステム化している印象を受けました。

【A4-2】三井不動産株式会社

このような取り組みが全国の拠点に広がり、楽しい顧客体験が生まれることを期待しています。

【A4-3】株式会社アイテム

シンプルに実装、操作は簡単

【A5-1】ニッセイ情報テクノロジー株式会社

膨大なデータを解析して、人の意識を変えていく活動が印象的でした。

【A5-2】三井住友海上火災保険株式会社／MS&Aインターリスク総研株式会社

“防災ダッシュボード”は自社の事業との組み合わせが考えられるところ大変興味深かった。

膨大なデータをユーザーに提供し、状況把握と適切な判断が可能になる優れたシステムの印象を受けました。

【A5-3】横河電機株式会社

データ駆動型オペレーションの実現の模範的事例とし、もっと詳細に中身を知りたいとおもいました。

【A6-1】イーデザイン損害保険株式会社

データアナリティクスでなく、ビジネスアナリティクスが重要であることが、本質をついていると感じました。

ビジネスアナリティクス部という組織名、会社としての位置づけ、組織化の進め方など、非常に素晴らしい取り組みで、ぜひ参考にしたいと思います。

プログラミングスキルの無い人たちでここまで成果を上げられるのかと思った。自社の参考にしたい。

【A6-2】株式会社ベネッセホールディングス

DX 人材育成のお取組など、とても参考になりました。Udemy 事業を通じて他社提供していくということですので、期待しています。

【A6-3】三菱商事株式会社

システム部門が新しい基盤を作るのではなく、業務部門が IT を駆使して新しい基盤をつくること点が印象に残りました。

【A7-1】文部科学省/エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社

おもいきり大きな開発 9 月はすごい

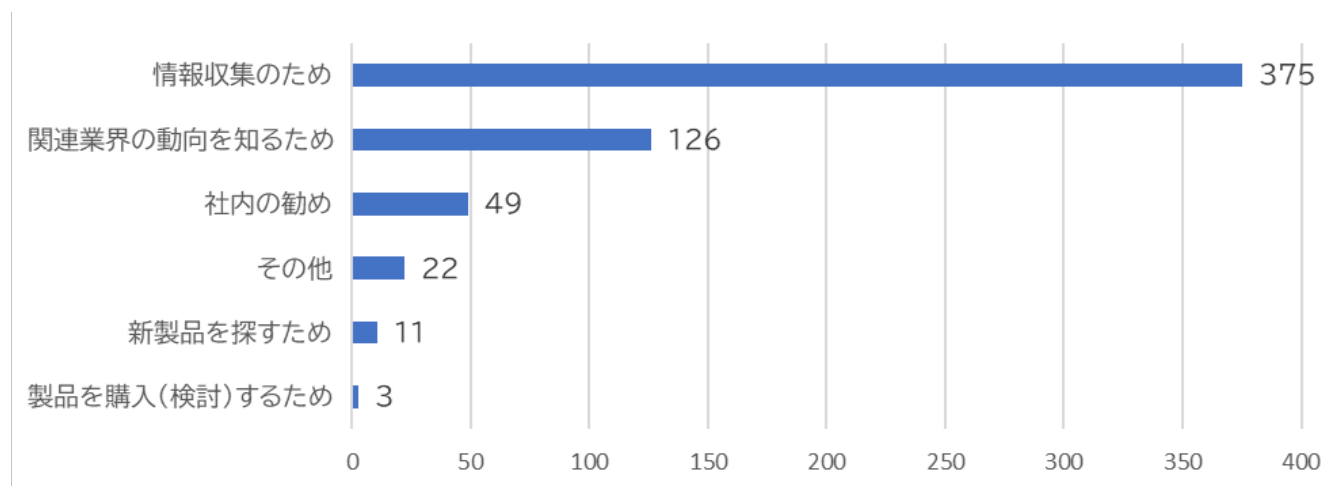
クラウド化することを一気に検討し、コロナを機に大きな方向転換を実現することを実現後のイメージをしっかりと考えての対応であったため。

【A7-2】楽天グループ株式会社

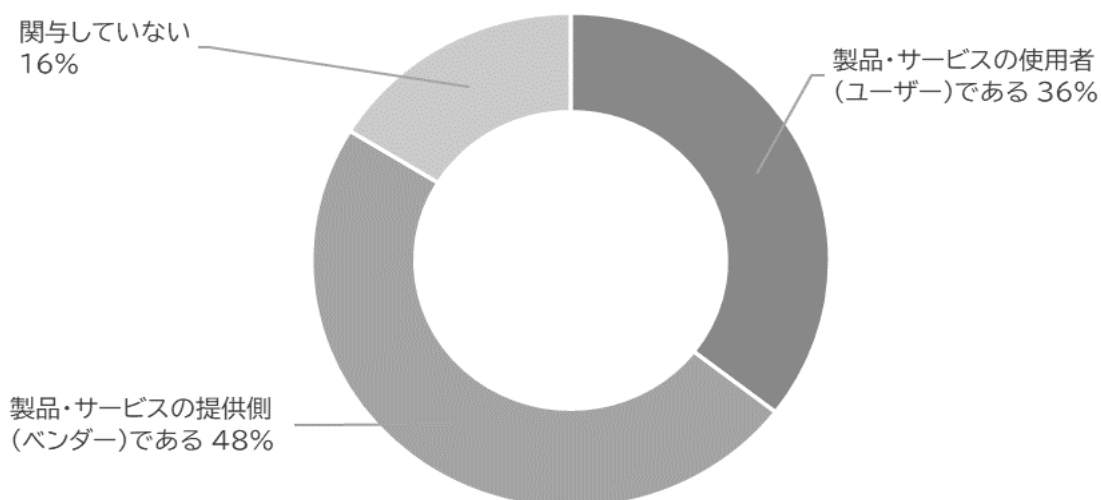
配送ルート最適化のお話が気になりました。サービス展開されれば使いたいです。

3. IT ソリューションセッション 事前登録時 アンケート集計（アンケート回収数：405）

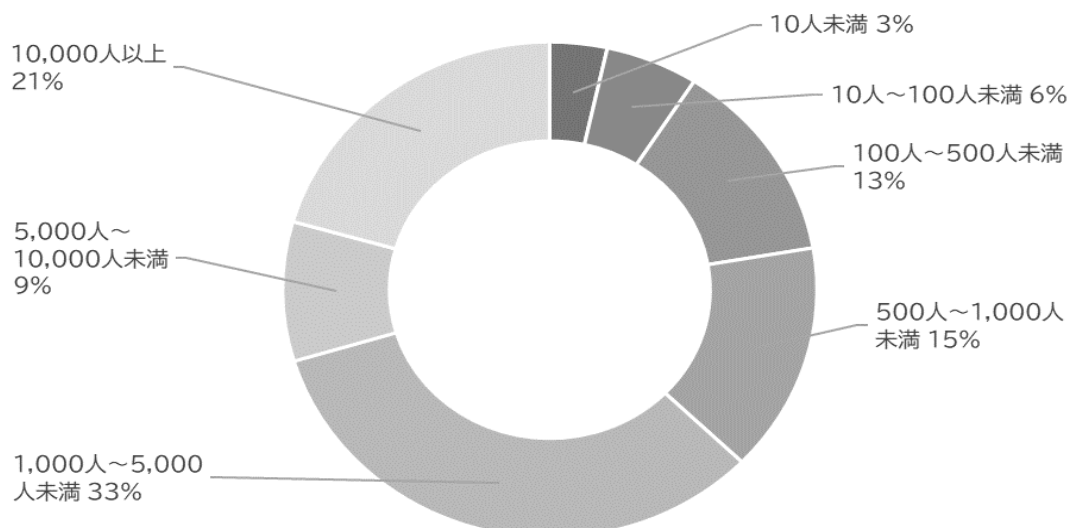
3-1. 参加目的



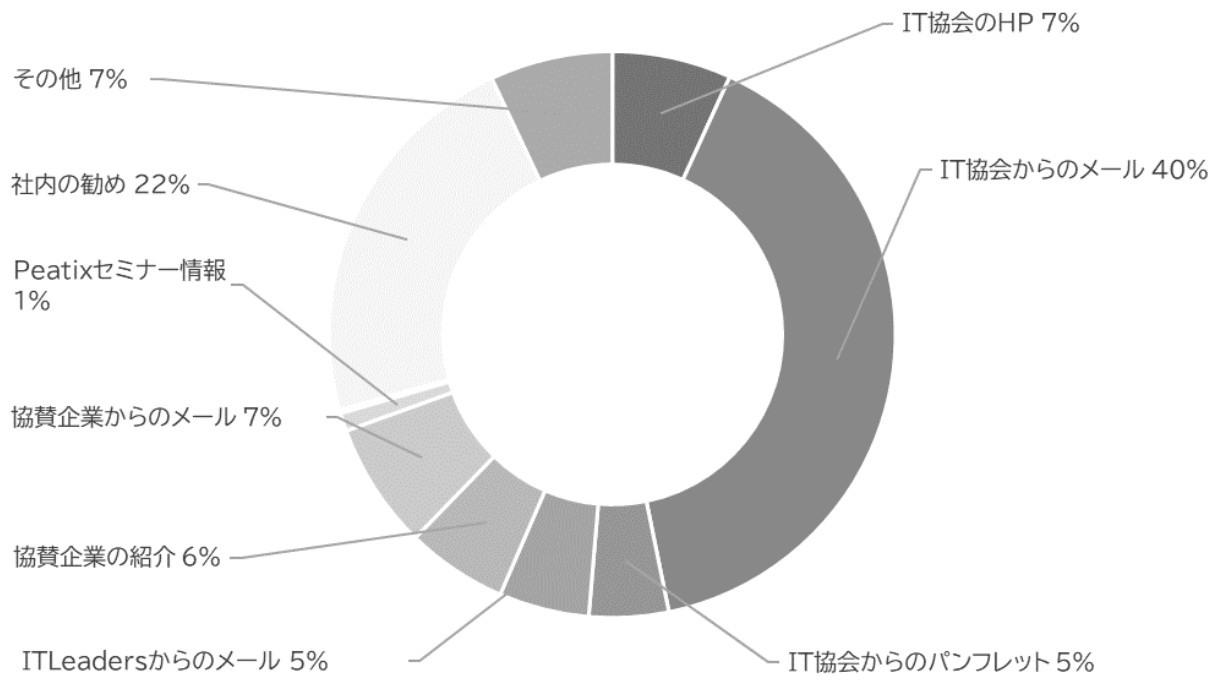
3-2. お立場について



3-3. 会社規模について (従業員数)



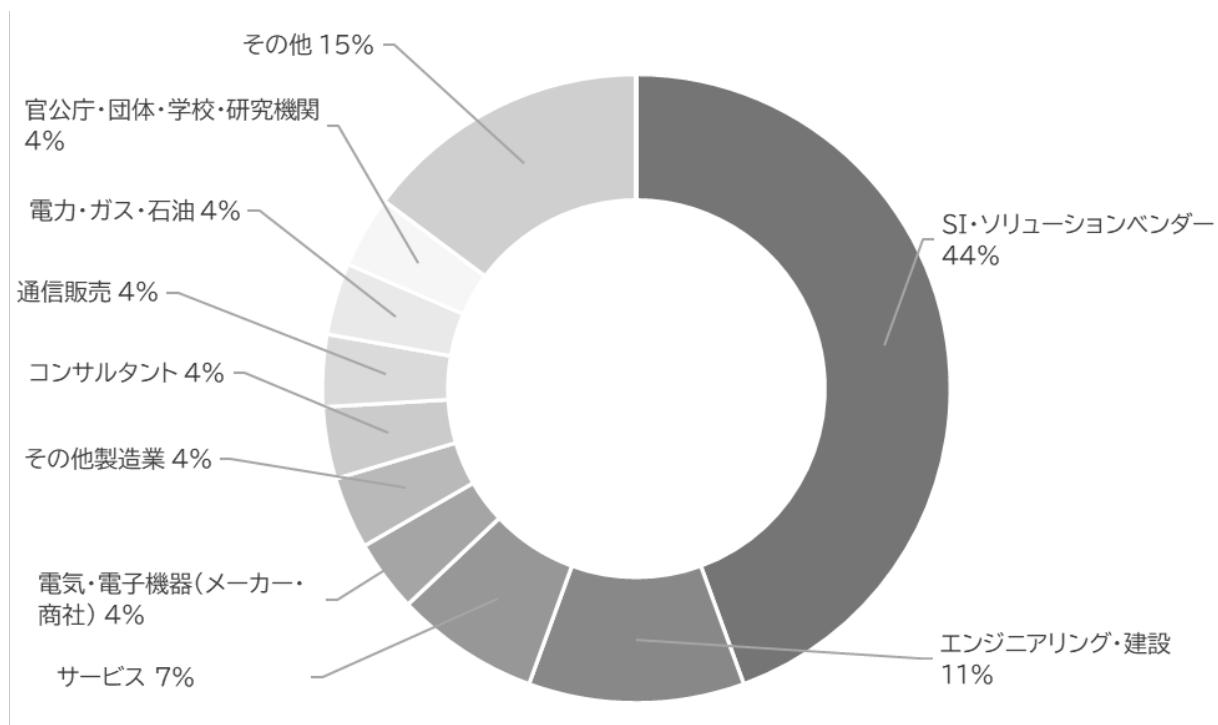
3-4. 参加のきっかけについて



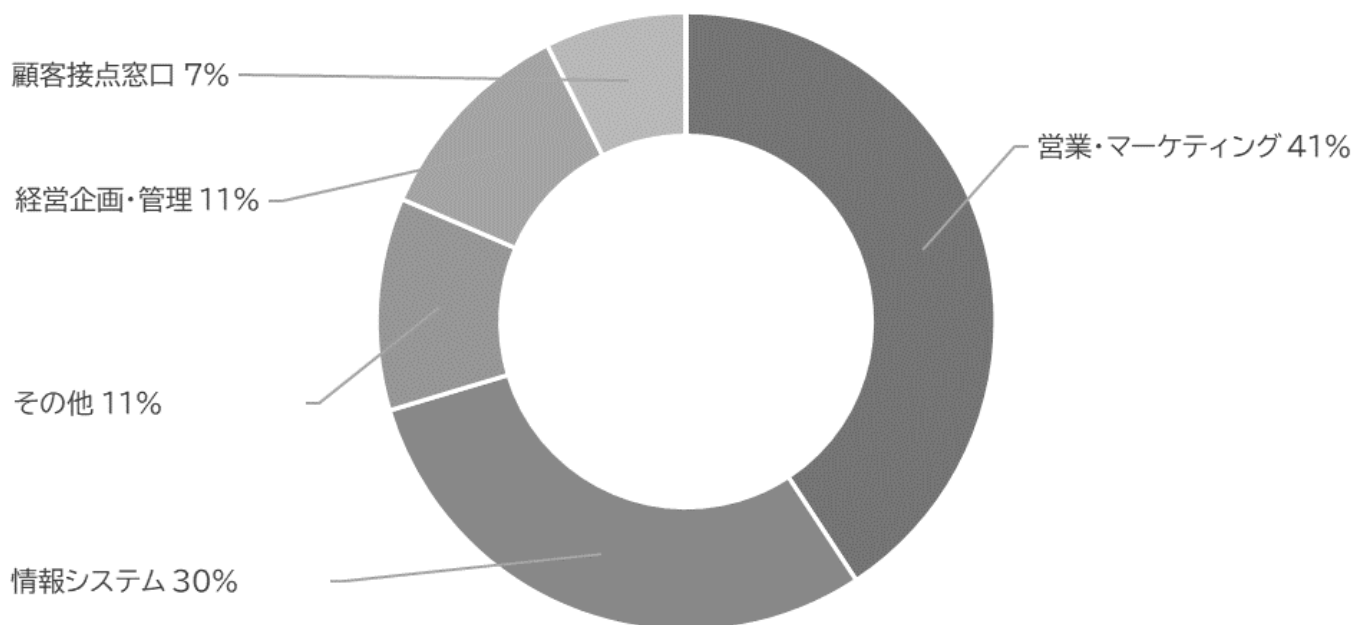
4. IT ソリューションセッション 終了アンケート集計（アンケート回収数：27）

4-1. 参加者属性について

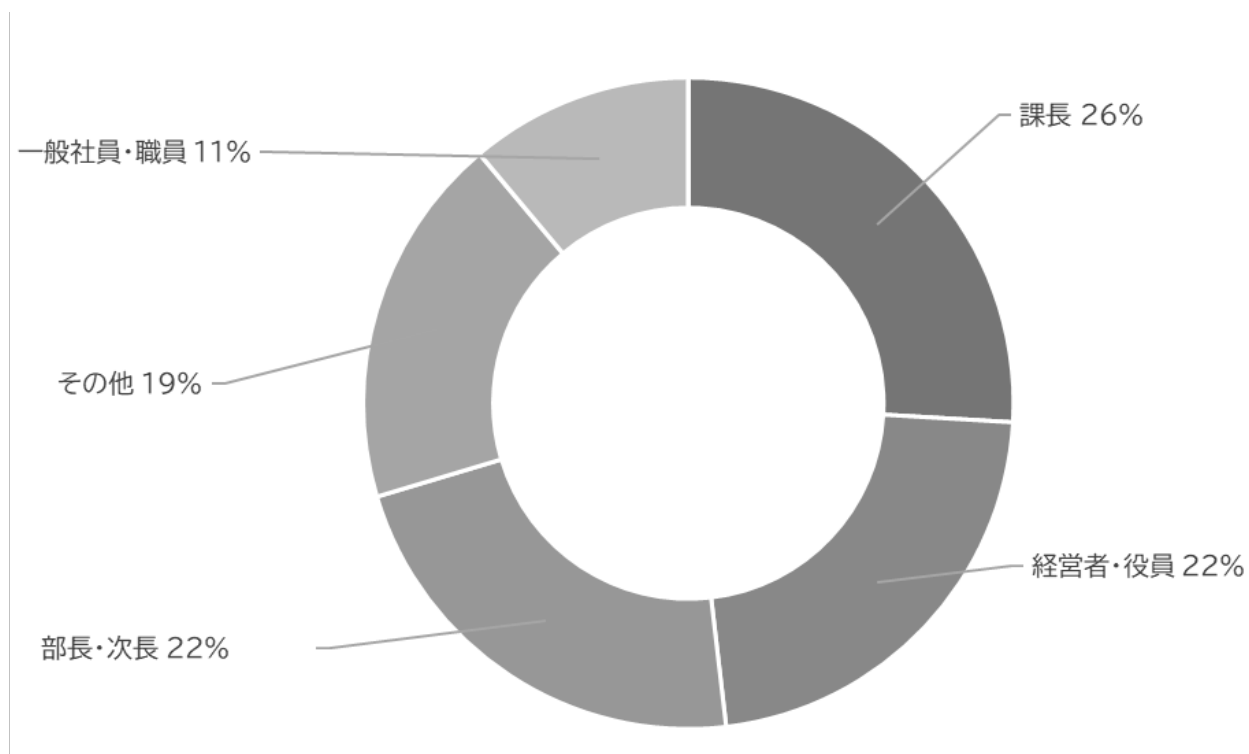
4-1-1 参加者属性 | 業種



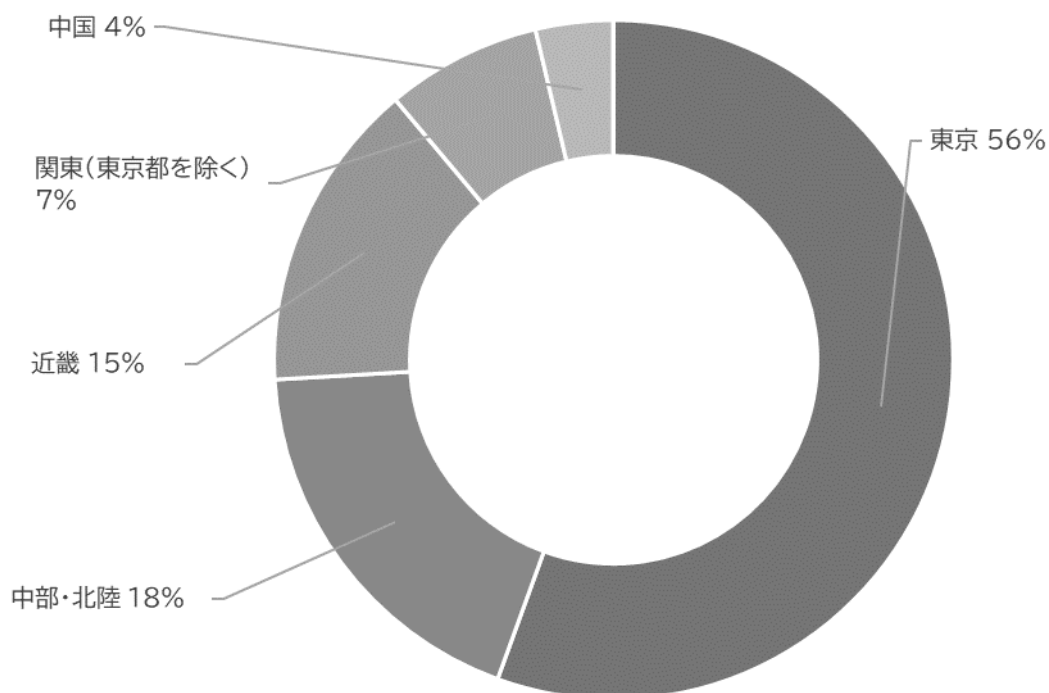
4-1-2 参加者属性 | 職種



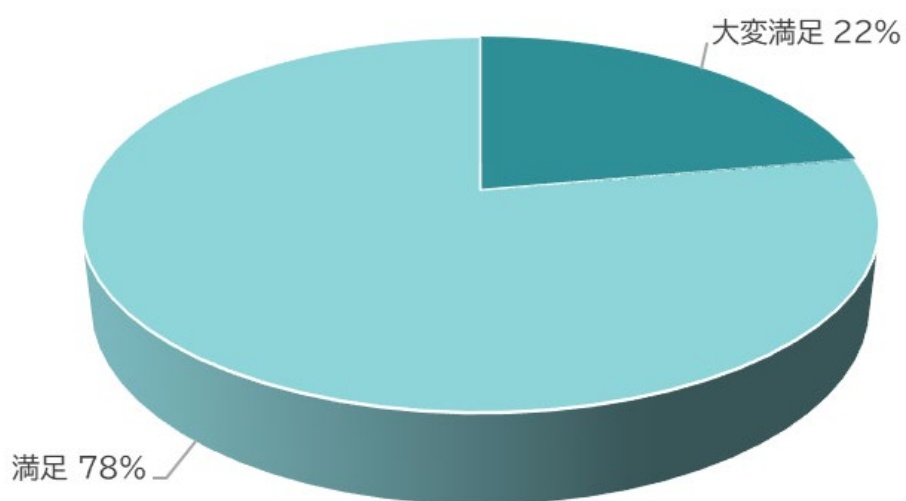
4-1-3 参加者属性 | 役職



4-1-4 参加者属性 | 勤務地



4-2.本セッションの総合的な評価をお聞かせください



大変満足

DXの動向、事例などを知ることができたから。

DXを中心に色々な事例、情報を得ることができ、大変参考となりました。

毎回参加していて具体例が参考になる。

満足

DX の勉強を続けるため

これまであまり気にしなかった事柄について説明されていたので、興味を持った。

すべてを視聴することは出来なかったが、DX や先進的な取り組みなどを感じることができたから。

ユーザー（特に金融関連企業等）の事例含めた紹介は参考になる

皆さんの活動がよく分かったので

概ね期待していた内容で、満足しています。

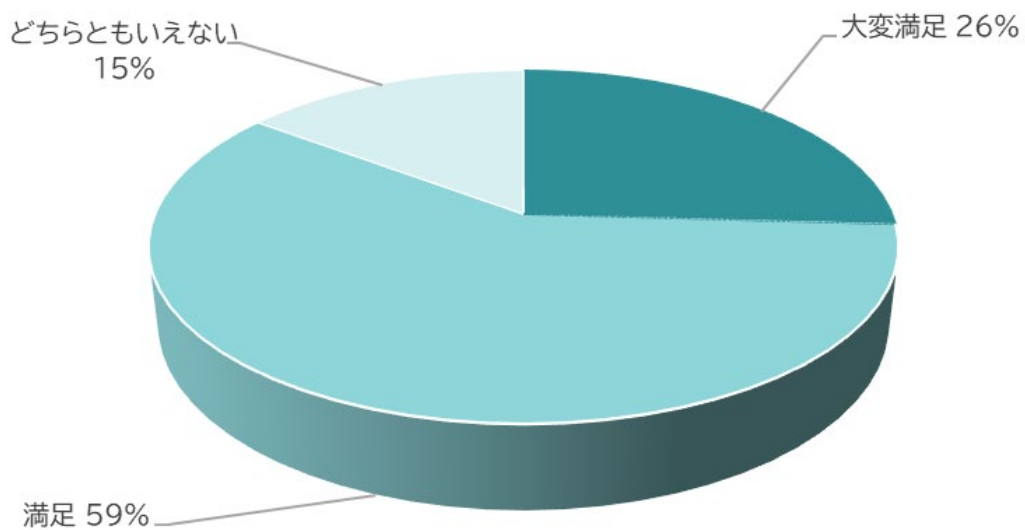
受賞各社のコンパクトな講演が良かった。

色々な観点での情報収集ができたため

新しい情報が得られたから

知りたい情報が多く優先順位づけができない状況でしたが、今回の講義を視聴することでそのことが少し救われと思えたことです。

4-2.プログラムの構成についてのご感想をお聞かせください



大変満足

DX、AI、ビッグデータ、セキュリティなど幅広いテーマで構成されていたため。

"オープンイノベーション領域、トランスフォーメーション領域、マネージメント領域、サステナビリティ領域に区分されていること"

具体例が参考になりました。

満足

DX の学習を続けるため

オンライン配信で時間設定がしやすく、わかりにくい部分を戻って再度見れるのは良い

わかりやすく構成されていたと思います。

好きな時間に視聴出来て良かった。

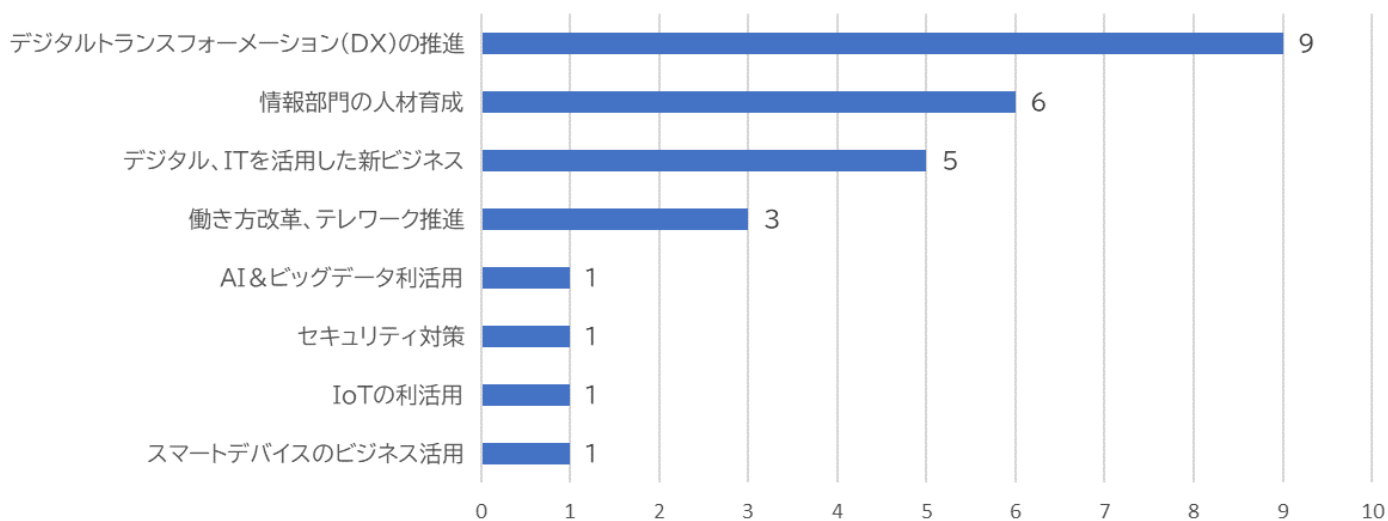
色々な観点で情報収集ができた

どちらとも言えない

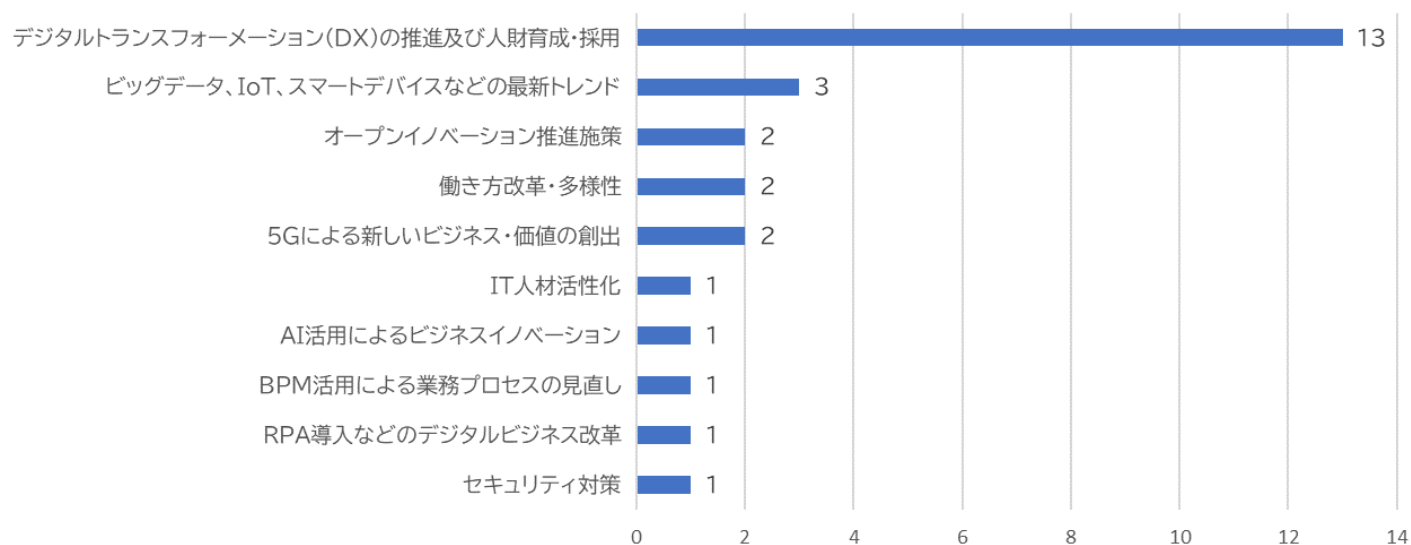
各テーマに沿った内容だったか、各講演の粒度がそれぞれだったなど。

各動画の概要がわかるようなものがあればよい

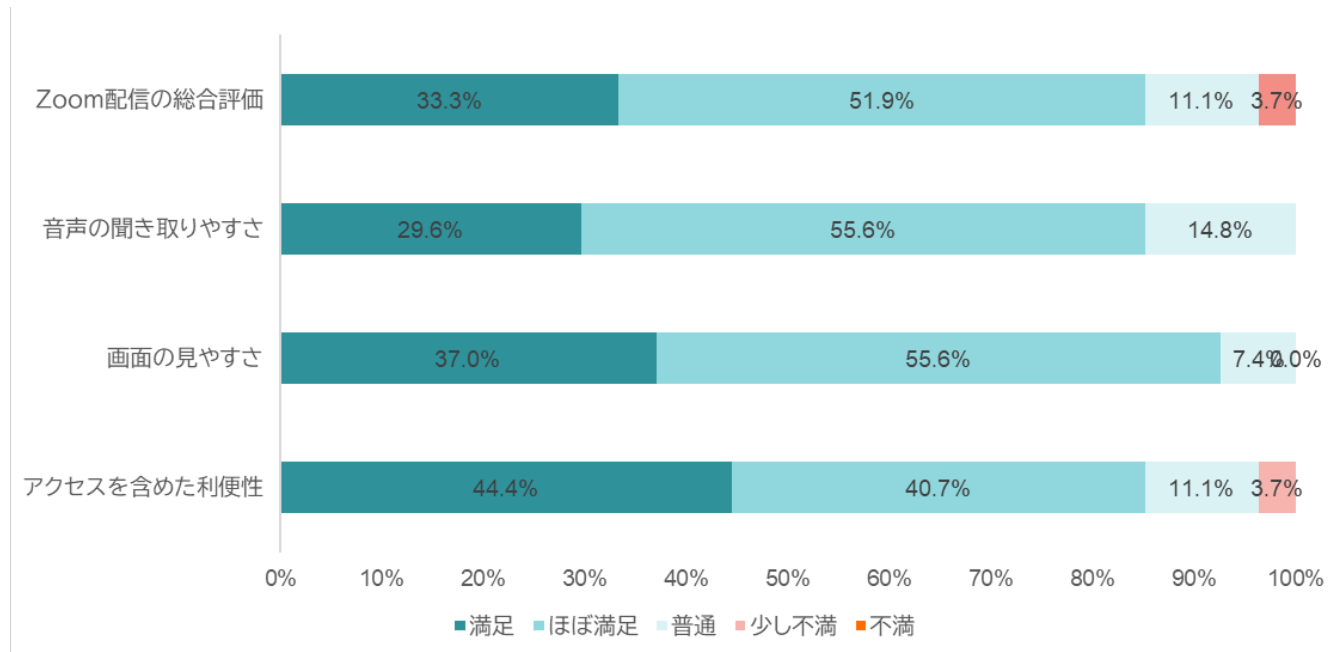
4-3. 貴社にとって現在解決すべき課題を教えてください



4-4. 小会の活動に期待しているものテーマをお聞かせください



4-5. 動画配信について感想をお聞かせください



コメント

1 プログラムを視聴後、自動で再スタートせずにストップしてほしい。

テキストのダウンロードを増やしてほしいです。

とてもよかったです。

画面構成が使いにくいと感じる時もあった。視聴する上では問題なし。

会社で zoom が基本的には禁止されおり、手続きが必要なため、zoom 以外を希望

使いやすかったです。

大変良かったです

VI. 2022 年度 I T 賞受賞企業



IT 最優秀賞 : マネジメント領域
 日本生命保険相互会社/
 ニッセイ情報テクノロジー株式会社



IT 最優秀賞 : トランスフォーメーション領域
 株式会社トリドールホールディングス



IT 優秀賞 : マネジメント領域
 アセットマネジメント One 株式会社



IT 優秀賞 : マネジメント領域
 オリックス生命保険株式会社



IT 賞 : マネジメント領域
 アフラック生命保険株式会社



IT 賞 : マネジメント領域
 コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社



IT 賞：マネジメント領域
西日本旅客鉄道株式会社/
株式会社 JR 西日本 IT ソリューションズ



IT 賞：マネジメント領域
東日本旅客鉄道株式会社



IT 賞：マネジメント領域
明治安田生命保険相互会社



IT 奨励賞：マネジメント領域
東京ガス株式会社



IT 奨励賞：マネジメント領域
パーソルホールディングス株式会社



IT 奨励賞：マネジメント領域
三井住友ファイナンス&リース株式会社



IT 賞：顧客・事業機能領域
ダイキン工業株式会社



IT 賞：顧客・事業機能領域
大同生命保険株式会社



IT 賞：顧客・事業機能領域
株式会社ベネッセスタイルケア



IT 賞：顧客・事業機能領域
三井不動産株式会社



IT 奨励賞：顧客・事業機能領域
株式会社 AMDlab



IT 賞：社会課題解決領域
株式会社アイテム



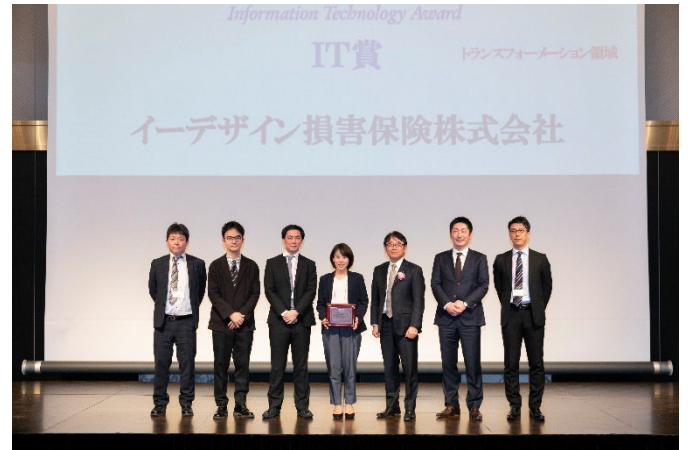
IT 賞：社会課題解決領域
ニッセイ情報テクノロジー株式会社



IT 賞：社会課題解決領域
三井住友海上火災保険株式会社/
MS&AD インターリスク総研株式会社



IT 優秀賞：トランスフォーメーション領域
横河電機株式会社



IT 賞：トランスフォーメーション領域
イーデザイン損害保険株式会社



IT 賞：トランスフォーメーション領域
株式会社ベネッセホールディングス



IT 賞：トランスフォーメーション領域
三菱商事株式会社



IT 奨励賞 : トランスフォーメーション領域
株式会社アイティ・コミュニケーションズ



IT 奨励賞 : トランスフォーメーション領域
株式会社 TSON



IT 奨励賞 : トランスフォーメーション領域
三菱 HC キャピタル株式会社



IT 奨励賞 : オープンイノベーション領域
三井住友海上火災保険株式会社/
株式会社アーバンエックステクノロジーズ



IT 優秀賞 : ニューノーマルへの対応領域
文部科学省/エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社



IT 奨励賞 : ニューノーマルへの対応領域
MS&AD システムズ株式会社/
三井住友海上火災保険株式会社



IT 賞 : サステナビリティ領域
楽天グループ株式会社



IT 奨励賞 : サステナビリティ領域
株式会社三井住友フィナンシャルグループ

第 38 回 IT 戦略総合大会は無事に終了いたしました。

ご協力いただいた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

今後ともご支援のほど宜しくお願いいたします。

公益社団法人企業情報化協会

第 38 回 IT 戦略総合大会

ITMC2023

～経営と IT の融合を目指して～

開催結果報告書

(禁無断転載)

発行日 2023 年 2 月

編集・発行 公益社団法人企業情報化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-22

日本能率協会ビル 3F

TEL : 03-3434-6677 / FAX:03-3459-1704

www.jiit.or.jp